

やってみよう

どこまで知っていますか近江八幡

一問一答

観光ボランティアガイドが教える

近江八幡の魅力

私は、近江八幡観光ボランティアガイド協会に所属し現在は事務局長をしておりますが、この問題とは直接関係はありません。これは、西川秀夫一個人の責任で作りました。ですから、下記の協会に所属しておりますが、協会とは無関係です。できれば、こういったことを仮称「近江八幡観光歴史検定」としてVG協会全体の取組でやりたかったのですがVG役員会で否決されてしまいました。今回の問題は、その時、例題として提案したものを、せっかく作ったので陽の目を見ずに没にするには惜しいので、勝手にUPしました。

近江八幡観光ボランティアガイド協会

〒523-0891 近江八幡市鷹飼町 無番地

J R 近江八幡駅北口 近江八幡市観光案内所内

T E L 0748-33-6061 FAX 0748-32-4125

HP: <https://www.omi8guide.com>

提案書には、このような文言を入れて、会員の力も借りようと思ったのですが・・・

この問題のタネ本は、近江八幡観光ボランティアガイド協会が手作りで作った、「ガイドマニュアル＝ガイド教本」や元郷土資料館長（河内氏）作成の「四方山話」が元になっていますが、問題文は個人の作です。当協会員の観光ガイドの案内説明をじっくり聞いていれば、簡単な問題になっています。また、時間が無くて、聞きもらった場所や、行っていないところのガイドにもお役立てください。最近は歴史や時代劇ファンのみならず、また安土城・八幡城・八幡堀だけでなく、長命寺、武佐宿、沖島、ヴォーリズなど、近江八幡のことをもっと知りたい。学びたいと思う人が増えています。そういう人達に向けて、観光ガイドの一コマをお見せすることにより、「もう一度、来幡したい。」というリピータを増やすことを目的で作りました。ぜひ、現地へ赴き、目で見て、肌で感じながら学んで、一層近江八幡を好きになって頂く機会として、この「一問一答」をPRするものです。少し難解と思われる箇所もありますが、個人の素人の見識ですから、たかがしれています。歴史好きマニアの方なら簡単です。問題も近江八幡市に関係するものに限定しています。・・・

☆初級編

1、 旧伴家住宅

小幡観光駐車場から降りて最初に目に入るのは、3階建ての屋敷です。これは八幡商人を代表する伴庄右衛門（荘右衛門とも書く）家の屋敷です。この旧伴家住宅跡は7代伴庄右衛門能伊（よしただ）が文政10年（1827年）から天保11年（1840年）にかけて建てたものです。その後、明治の学校（八幡西学校）、町役場、図書館として利用されましたが、明治28年当時の尋常高等小学校の図面に基づいて復元し、平成16年4月より一般公開されています。

さて、問題ですが、旧伴家住宅の玄関横にある顕彰碑（石碑）には、江戸中～後期（享保～文化）の国学者・歌人でもあった、5代目伴庄右衛門資芳（すけよし）を讃える光格天皇の兄君（妙法院宮真仁法親王）の署があります。資芳は家業も繁栄させますが、歌学に精通し、平安和歌四天王とまで呼ばれています。その資芳は、何と呼ばれていましたか。

3 択問題

① 伴蒿蹊（ばん こうけい）、 ② 伴 太郎左衛門 ③ 伴 伝兵衛

答：①

解説

5代目伴庄右衛門資芳は、伴蒿蹊と称して初め和歌を北村季吟に学び、与謝蕪村や本居宣長とも親交があり、後世は文筆家として名高い。著書「近世畸人伝」は有名です。他に「主従心得草」、「閑田詠草」「閑田耕筆」などの著述から閑田子と別号した。

忍者列伝にも登場する有名な甲賀忍者（伴谷村出身＝大伴氏の末裔）であった伴太郎左衛門資家は織田信長に仕え1582年6月本能寺の変で討死をしている。その子が伴庄兵衛資則（資規）で、安土城下に住んでいたが、秀次の八幡開町と同時に両刀を捨てて商人（蚊帳、豊表、扇子、麻織物等の行商）となり、八幡永原町に移住し屋号を扇屋と称した。2代目資明の長男＝資宗は、新町の現在地（伴荘右衛門家の西隣）に移り新町に本店、江戸日本橋に出店を開業して、初代伴伝兵衛を名乗った。また二男資通も分家して現在資料館の、初代伴荘右衛門（庄右衛門と書かれている資料も多い）を名乗りました。共に屋号は扇屋で、江戸では近江屋と称しました。早くから江戸で多くの大名を顧客にしており、2代目伴伝兵衛と柳川藩立花家の繋がりを広めた有名な話として「近江屋の松飾り」が伝わっている。残念なことに、伴伝兵衛本宅は無く跡地に現在、小幡駐車場の東屋の横に蔵が残されているだけである。この蔵に森蘭丸所用の胴丸具足があって現在、甲冑コレクターの伊澤氏が所蔵しているという話は甲冑ファンにとっては有名である。その入手経路は不明だが伴伝兵衛家から別家（のれん分け）を許された家に森家（森五郎兵衛）があり、また、伴一族に、本能寺の変の際、幼い森忠政を匿った伴惟安がおり忠政が藩主となった津山藩に家臣として迎えられているので伴家と森家は何らかの関わりがあったのであろうと思われる。

2、 朝鮮人街道

小幡観光駐車場の北側の道を「京街道」とも「朝鮮人街道」とも云われます。この街道は織田信長が安土に城を築いた時に、南近江での主要な京までの軍用道として整備しました。従来の東山道（中山道）＝上街道に対して下街道と呼ばれていました。羽柴秀次が八幡の町を作った時に、この下街道を八幡の街中を通るように作り直したのです。秀次が残した「八幡山下町中掟書十三カ条」には、第1条の楽市楽座・諸役免除とあわせ「第2条には、近江の国を往還する商人は当町に寄宿すべし、並びに湖上を通る商船は必ず八幡浦に出入りすべし事。但し荷物の付け下げは荷主次第となす。」とあり、街道や湖上交通の人や物を町に集めました。このことが後の八幡商人の活躍に大きな役割を果たすこととなります。秀次の出した楽市・諸役免除は御朱印状として京極高次、徳川家康に引き継がれて幕末まで八幡町に保管され御朱印騒動まで引き起こしました。1600年関ヶ原合戦が起こった時に徳川家康はこの町に寄り街道を往復しました。そのためこの街道を「戦勝街道」とも呼び、以後はこの街道は將軍家しか通わない道と決めました。参勤交代の大名は中山道を通らせたのです。例外的に、国賓級の外交使節団である朝鮮国からの通信使だけは、この街道を通らせたのです。そこから朝鮮人の通る街道ということで朝鮮人街道と称されるようになりました。旧伴家住宅には第7次の朝鮮通信使への饗応料理（昼食）のレプリカが常設展示されています。さて問題ですが、この朝鮮通信使の関連で近江八幡市と韓国の密陽市とは姉妹提携を結んでいます。この姉妹提携を結ぶことになった歴史上の人物は次のうち誰でしょう。

- ① 李 邦彦（李 南岡） ② 松雲大師（四冥大師、惟政） ③ 雨森芳洲

答：②

解 説

李邦彦（イ・バンソク）は第8次の正徳度の通信使の従事官である。帰路、本願寺八幡別院にて逗留し望郷歌の七言絶句を書き遺した。その書はユネスコ世界記憶遺産として登録されている。彼の書は鞆の浦の対潮楼にも有名な「日東第一形象」書が残されている。松雲大師は、第1回の朝鮮通信使（1607年＝当時は3回目までを回答兼刷還使という）に先立つこと1604年、朝鮮国王の使者として伏見城で徳川家康と会見し、以後の朝鮮通信使の道筋をつけた人として記憶されている。惟政の尊号が松雲大師であり壬申倭乱（日本では文禄・慶長の役）の時に抵抗軍を組織して日本の倭軍と闘った義僧である。その出身地が密陽市であり、同市の義忠寺というお寺に祀られている。朝鮮人街道が取り持つ縁での姉妹提携であった。雨森芳洲は号で、近江高月町（現長浜市）の町医者出身で、朱子学者木下順庵に学び師の推薦で対馬藩に仕えた儒学者である。釜山の倭館で朝鮮語を学び正徳と享保の2回、朝鮮通信使に同行した。同門には新井白石がいる。現在も長浜市高月雨森地区には芳洲庵があり、朝鮮通信使関連（世界記憶遺産）が展示されている。

3、八幡堀

新町の八幡商人の町家筋を通り抜けると八幡堀の新町浜に至ります。そこは映画やTV時代劇の撮影のロケ地として有名な場所です。天正13年閏8月22日（新暦では10月15日になるので NPO 法人秀次倶楽部ではこの日を八幡開町の日とする）秀吉から羽柴孫七郎秀次に対し朱印状（封地状）が発せられ、秀次が八幡山城主になりました。秀次（実際に指揮したのは家老の田中吉政＝九兵衛町の名があり）は八幡山の周囲に人工の堀を掘り、その土砂を町の西側の湿地に埋めて町割りを完成させました。湿地で水はけが悪い箇所には下水道（＝背割排水）を設けたと言われます。竹管の古式水道も、江戸初期に商人・町衆の手で完備されたと伝わっています。この八幡堀は琵琶湖と繋ぎ、当時七か所あった八幡浦（浜・港）には琵琶湖を往来する商い船を寄港させた。（八幡山下町中掟書より）

さて天正13年閏8月22日に羽柴秀吉から羽柴孫七郎殿に宛てた封地状には、「秀次の知行地は江州所々において43万石だが秀吉が付けた宿老達に23万石を当て、自分（秀次自身）は20万石をあてがうこと堅く申しつける者也」とあり、秀次の家臣に養子先の三好家の若江八人衆を引き抜いて付けたり、田中吉政など秀吉から眼をかけられていた武將を宿老（付家老）としているが、次の3武將のうち、秀次の宿老でなかった武將は誰か。

- ① 中村 一氏 ② 藤堂 高虎 ③ 一柳 直末

答 : ②

解説

中村一氏は秀吉が長浜城主以来の与力（家臣＝200石）であり、山崎の合戦、賤ヶ岳の戦いで武功を立て岸和田城主として3万石を領していたが、秀次が江州、八幡城主となった時に、付けられた家老の一人で、近江国水口岡山城主になり8万石を拝領している。別名を「孫平次」といい、今もその名を市内町名に残している。一柳直末は美濃（現在の岐阜市）の土豪であったが元龜元年（1570）秀吉に仕え、黄母衣衆となった。天正13年、秀次の宿老に任命され美濃大垣城に3万石を領した。直末の別名である「市助」町も八幡町内に残っていたが、江戸時代に仲屋町となって今に至る。ただ、彼の場合は、小田原合戦の時に秀次軍の山中城攻めで戦死をしている。墓と記念碑は山中城跡にある。不思議なご縁で、直末の家督を継いだ直盛の家系から、一柳満喜子＝後のヴォーリズ夫人が出ているのである。この2人を結びつけたのが「NHK 朝ドラのあさが来た」の主人公＝広岡浅子である。その朝ドラのロケ撮影で八幡堀も利用しており奇縁でもある。藤堂高虎は秀次でなく秀吉の弟の大和郡山城主であった秀長の家老であった。秀長亡きあとは秀長の養子であった秀保（秀次の弟）が郡山大和中納言となり藤堂高虎は後見役となったが、その秀保も横死をして、大和郡山の豊臣家は断絶となっている。このように、主家（秀次や秀保）を悲劇で無くした家老＝武將たちは、関ヶ原合戦では東軍に就き、田中吉政などは、石田三成を捕縛した武功により、筑後柳川藩を賜っている。秀次事件は秀吉の謀略で冤罪なり。と思う。

4、 日牟礼八幡宮

社伝によれば、13代成務天皇の折、武内宿禰に命じて大島大神（地主神）を祀らせました。その後、応神天皇が母の故郷＝息長に行幸の際、この地に御座所を置かれた故にそこに祠を建て、日群之社と名付けられた。（日牟礼社の社名は、日触の転で、和邇族の日触使主（ヒルノミ）に由来するとも云われている。）また持統天皇5年（691）に藤原不比等が参拝し「天降りの神の誕生の八幡かも 日牟礼の社になびく白雲」と和歌を詠み、当時の万葉仮名により日牟礼の社に改めたとされています。正暦2年（991）一条天皇の勅願により宇佐八幡宮を勧請して八幡山に上社を、麓に下社を祀りました。天正13年八幡山城築城の際、上社は麓の下社に移され合祀されました。祭神は、応神天皇と神功皇后と比売神（宗像三女神）です。八幡神は武神として信仰され近江守護の佐々木六角氏などに尊崇されてきました。境内社として大島神社、八坂神社など八社あります。大鳥居は紀州藩士だった日置清順が三十三間堂の通し矢で優勝した時に故郷の八幡に寄附したものです。社宝として国の重文「安南渡海船額」（絵馬）があります。江戸初期の鎖国で帰れなかった八幡商人、西村太郎右衛門が奉納したものです。楼門は鎌倉時代に佐々木六角氏が建立したが焼失し、現在のは江戸時代に再建された門です。左右に隨身様（大臣）があり「随神門」と呼びます。屋根の下四隅には猿の彫刻があり「四方猿の御門」と呼ばれてお目出たい門です。楼門には三つの異なる紋が掲げられています。左には、左三つ巴の八幡の神紋があり、中央は菊のご紋です。右には何のご紋が掲げられているでしょうか。

- ① 織田氏の五つ木瓜 ② 豊臣氏の五七の桐 ③ 徳川氏の三つ葉葵

答：③

解 説

織田信長の遠祖に、織田（平）親真という人物がいる。彼は平家の一族（平資盛の子）で南津田に隠れ住み、後に越前織田荘の忌部氏に養子に行き織田剣神社の神官となった。その子孫が織田氏や津田氏となり、斯波氏が越前守護になると越前の国人であった織田氏も暫時被官層に組み込まれ斯波氏が尾張守護を兼任すると織田一族も越前から尾張に移住していったものと見られる。織田信長が平家を称していた根拠はこれである。奇しくも、系図では遠祖の故郷に錦を飾ったことになる。五七の桐は豊臣氏が後陽成天皇より氏と共に賜った紋である。豊臣秀吉の甥の秀次も羽柴から豊臣氏に改めた際に五七桐紋の使用を許されている。五三桐は、室町時代から広く使われ織田信長も使っている。三つ葉葵のご紋は水戸黄門でも有名な徳川の家紋である。なぜ日牟礼八幡宮に掲げられているのかというと、関ヶ原合戦の時、徳川家康が戦勝祈願をした神社であり、帰路にも本願寺八幡別院で休憩をしている。その関係で八幡町民は徳川家の庇護を受け、大阪の陣などでは徳川軍に味方し後方支援を担ったという。八幡商人が、いち早く江戸日本橋に店を出せたのも、恩を感じた家康から、今でいう企業誘致を受けたからだという説もある。

5、八幡山城

「続・日本百名城」に載った八幡山城であるが、その面影は石垣積み（野面積み、角は算木積み）だけである。山頂には村雲御所瑞龍寺（日蓮宗唯一の門跡寺院）が京都村雲の地（現在は西陣会館がある所）から昭和36年に移築されました。元は秀次の母の智（日秀）が嵯峨野の庵で秀次一族の菩提を弔っていましたが後陽成天皇から寺領を村雲の地に賜り建立した寺です。山頂はもとより出丸、西ノ丸、北ノ丸跡から眺める風景は格別です。秀次は18歳で八幡城主となり、28歳で高野山の柳の間で（謀反の嫌疑をかけられ）切腹しますが、秀次の係累39名も三条河原で処刑されます。その悲惨な絵図と墓が三条橋近くの瑞泉寺（豪商角倉了以が秀次悪逆塚跡に建立）にあります。京都に行ったら是非お立ち寄りください。また京都左京区の善正寺は瑞龍寺の歴代墓所（1世日秀～12世日英、13世日鳳）がある所です。寺号は秀次の法名「善正院殿高岸道意大居士」から善正寺と名付けています。是非こもお立ち寄りください。豊臣完子（秀次の実弟＝豊臣秀勝と江の子）の子と孫が瑞龍寺2世と3世であったのには驚きました。なお、秀次や母日秀の墓所は善正寺であり、瑞泉寺は秀次の首塚の供養と処刑された秀次一族39人・打首賜死の家臣十数人の墓所がある。特に哀れを誘うのが「駒姫＝伊万」の処刑であったと云われる。NHKドラマの「真田丸」や映画「関ヶ原」で描かれていたのでご記憶の方も多いと思います。さて、問題です。その「駒姫」は誰の武将の娘であったでしょうか。

- ① 最上 義光 ② 前野 長康 ③ 服部 一忠

答： ①

解説

秀次の奥州平定に際して、見染められて京都聚楽第に15歳で入第したが、その時、秀次は既に高野山に蟄居していた。父義光の助命嘆願も虚しく三条河原で処刑となった。辞世の句は京都国立博物館に保存されており複製品が瑞泉寺にあり、山形の最上義光歴史館でも見られる。菩提寺は山形市内の専称寺（真宗大谷派）にある。余談だが江戸時代前期に最上山形藩は改易となり近江大森（1万石→5千石）に陣屋を構えた。現在は玉緒小学校の横に陣屋跡がある。前野（将右衛門）長康は墨俣城時代から蜂須賀小六と共に秀吉に仕えた武将である。秀次の家老＝後見役であったが秀次事件に連座して、子の景定と共に切腹させられた。前野家に伝わったという「武功夜話」は従来の学説を覆す貴重な歴史資料と一時は注目されたが信憑性は立証されていない。服部一忠は、通称名を「小平太」と云い、永禄3年の桶狭間の合戦で、今川義元に一番槍を付けた有名な武将（当時は馬廻り）である。本能寺の変後は秀吉に仕え、小田原合戦の武功により伊勢国一志郡35000石を領したが同時に、尾張・北伊勢を与えられ100万石の清須城主となった秀次に付けられた。そのため秀次事件に連座して領国没収のうえ上杉家に預けられ賜死を命じられている。服部という氏から分かるように、伊賀忍者の服部氏の同族である。その他秀次の家臣には信長に滅ぼされたとされる浅井家や六角家の係累が実は秀次公の家臣として、浅井喜八郎井頼（長政二男、庶子）や六角義郷が存在していたことにも驚きます。

6、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（一柳 米来留）

明治 38 年（1905）に日本でのキリスト教伝道の志を立て、単身でこの近江八幡の地にやってきた W・M・ヴォーリズ（24 歳）は、初め県立商業学校の英語教師となったが 2 年後に解雇され、その後は京都三条の YMCA に建築設計監督事務所（後のヴォーリズ建築事務所）を開業し、さらにヴォーリズ合名会社を設立して建築家として名を成したが、近江サナトリウム（現ヴォーリズ記念病院）の開設や、近江セールズ（株）で輸入販売、メンソレータム（現メンターム）の輸入取扱い（後に製造販売）などの事業も起こし「青い目の近江商人」と呼ばれた。38 歳で一柳満喜子夫人と結婚後は市内の子ども達の教育にも力を入れ近江兄弟社学園（現ヴォーリズ学園）を設立した。78 歳の時、近江八幡市名誉市民第 1 号に推された。遺骨は夫婦とも恒春園（ヴォーリズ記念病院横）に眠る。この W・M・ヴォーリズの縁で近江八幡市とアメリカのある都市とは友好都市提携をしている。そのアメリカの都市は次のうちどれか。ヴォーリズに因んで、その都市は姉妹都市ならず兄弟都市と云っている。

① カンザス州レブンワース ② アリゾナ州フラッグスタッフ ③コロラド州デンバー

答：①

解説

レブンワースは西部開拓団の出発地である。市章は幌馬車である。ヴォーリズ像の横に記念碑がある。この地でヴォーリズは誕生から 8 歳までの幼年期を過ごした。体の弱かったヴォーリズは療養を兼ねて一家でフラッグスタッフに移住し少年期をここで過ごした。さらに 16 歳の時、デンバーに転居しイースト・デンバー高校に通い、大学も建築家を目指して近くのコロラドスプリングスにあるコロラドカレッジに入学する。大学では YMCA 活動に熱心で 21 歳の時カナダのトロントで開かれた学生宣教義勇団大会に参加し感銘を受け外国伝道への献身を決意する。そして大学（哲学科）卒業と同時に YMCA 本部からの日本の教師募集に応募し近江八幡に到着するのである。来日後、ヴォーリズの魚屋町の自宅で始めたバイブルクラスが解雇の原因でもあり中等学校 YMCA に発展し後の YMCA 会館（アンドリュース記念館）に繋がるのである。終戦後、近衛首相の密使が来てマッカーサ元帥とのコンタクトの仲介を依頼されたい。ヴォーリズはそのことを秘密にし墓場に持っていくつもりであったが、満喜子夫人側からその情報が漏れ、ヴォーリズは大変立腹したという逸話が残っている。レブンワースにはアメリカ陸軍の基地があり、マッカーサ元帥も幼年期をそこで過ごしていることから、ヴォーリズとは同郷の幼馴染だったのかもしれない。後日談で「天皇を守った外国人」ということになっている。そうでなくても、ヴォーリズが手掛けた軽井沢の別荘で、ヴォーリズと共に若き日の平成天皇と皇后と一緒に写真に写っているのを見たことがある。また、今でこそ「クラブ・ハリエ・たねや」の洋菓子は有名だが、最初の洋菓子はスイートポテトで、そのレシピをヴォーリズ家に教えてもらったのが最初であると「たねや」の社史に書いてある。昔の「たねや」は池田洋館街の隣にあったのだから事実であろう。

7、沖島

淡水湖で人の住む島と云えば沖島が話題となり観光客も増えてきている。一方高齢化率も増えており沖島小学校の児童数（平成 29 年度）も島内 2 名、島外からの入学が 17 名である。沖島は古くは全くの無人島で「神の島＝藤原不比等により奥津島比売命（弁財天）を祭神として社殿を創建～元は弁財天社（巖島神社＝市杵島比売命とも云われる）の磐座に神が降臨され祭祀場であったが後に現在地に移動した。」と云われ近寄ることもできなかった島です。どちらにせよ水神で奥津島比売命は宗像三女神の一柱です。対岸の白髭神社の湖中鳥居から沖島の奥津島神社を見ると北津田の大島神社、日牟礼八幡宮は一直線に並びます。沖島の奥津島比売命を奥津宮とし、大島神社を多岐都比売命の中津宮、日牟礼八幡宮の比売神（市岐島比売命）を辺津宮として三女神を祀るもので、これを「琵琶湖（霊）レイライン」と呼ぶ人もいます。このラインを延長していくと北は若狭湾に、南は伊勢神社に到達します。伊勢には猿田彦神社もあり白髭神社とも繋がります。また一説には、竹生島には端津姫命、多景島には多紀理姫が祀っており、天の真名井（琵琶湖）つまり近江高天原説があります。島民の歴史では、保元・平治の乱後、清和源氏の 7 人が住み着く事になり後年、宇田源氏の 2 人が加わり 9 氏が島の祖と云われています。また沖島には浄土真宗のお寺が 2 カ寺あります。他宗の寺はありません。これは約 550 年前（文明 3 年夏）、本願寺第 8 代蓮如上人が北陸への布教の途中で嵐に遭い沖島に流され上陸したとき、住人の茶谷某氏（重右衛門）が蓮如上人の弟子となり釈西了の名で庵を設けたのが西福寺の始まりで、その茶谷氏の西福寺には寺宝として、その時に書かれた蓮如上人ご真筆の「虎斑の名号」が残されている。もう一方の願証寺も西居某（宮内）が蓮如上人から釈願証（願生）と法名を授けられたことに始まります。見学は無料だが本堂に御参拝するには常識として懇志が必要でしょう。また、この島の北側（通称：セトウラ）には石英、長石を主成分とする石英斑岩が多く、昭和の最近まで石材業の碎石場がありました。現在、碎石場は段々畑にして一区画千円で配布され島民は「千円畑」と呼び自家野菜を栽培しています。多くの伝説も沖島にあり、足利義政の乳母であった「今参局」が日野富子との政争に敗れて流されてきたのち弁天浜で処刑されたという逸話もあります。

さて質問ですが、沖島では「七人の落武者」と後に 2 名の落武者が加わって、9 人の氏が確認され伝わっていますが、次のうち島民ではあるが、源氏の落武者の名にない氏はどれでしょう。

- ① 西居 ② 本多 ③ 奥村

答： ②

解説

島の祖と云われる氏は「茶谷、北、小川、南、西居、久田、中村」の七名と「富田、奥村」の 2 名です。本多さんは現在の願証寺の住職の名です。開基の西居某の家系が途絶えて、お寺を継職したのでしょうか。西福寺は茶谷氏が住職です。島内に限らず最近では檀家や門徒の高齢化や、若者のお寺離れなどが進んで寺院護寺に、どこも苦勞されているようです。

8、中山道

現在の国道 8 号線に沿って、南側に旧中山道が通っています。義経元服池（竜王鏡の里）から東へ日野川を越えて東川町の信号を南に一筋行った東西線の細い道が旧中山道です。馬淵小学校の前の道を通り、千僧供町に入りますと、小山の古墳群が見えてきます。その中に「住蓮坊遺跡（古墳）」があります。墳丘上に安楽坊・住蓮坊の供養塔がありますが、承元の法難で、ここで法然の弟子であった住蓮坊が処刑された場所です。その横には住蓮坊の首洗い池も残っています。承元の法難とは師の法然を四国に、親鸞を越後に流罪した事件ですが、鈴虫・松虫を直接出家させた 2 人には斬首が下されたのです。古墳群を横目で見ながら真っ直ぐに進むと「岩倉」に突き当たります。ここには穴太衆と比肩する馬淵衆と称する石工集団が住んでいました。右手に行くと倉橋部にでます。「今昔物語」で有名な「安義橋の鬼」物語の舞台です。右手に進むと、長福寺町・長光寺町に行けます。名前の通りお寺が多くあります。なかでも正面にある山は長光寺山と云いますが、別名を「瓶割山」と云います。柴田勝家が越前北ノ庄に移動になる直前まで居城とした所です。元亀元年(1570)、佐々木六角氏の残党軍に城を囲まれた時、城の水瓶を割り打って出たところからその名が付けられています。「瓶割り柴田」の異名もこの時のことです。今でも福井市の柴田神社では 5 月に武者行列が出て瓶割りの行事が行われます。山麓には「ハナノキ」（天然記念物）で知られる真言宗の長光寺があります。聖徳太子建立の 49 寺の 1 つと云われた名刹です。さらに東に進むと近江鉄道武佐駅と交差します。その手前の西宿町には伊庭貞剛の生家跡がありますが、今は広場になっています。伊庭貞剛は近代住友の第 2 代目総領事です。別子銅山中興の祖と云われ、足尾の田中正造も評価していた。住友林業が今あるは彼が植林を進め環境復元に心血を注いだからだと云われている。中山道と八風街道が交わる付近を武佐宿といい、本陣・脇本陣跡がある。浄土真宗の広濟寺は太子山といい聖徳太子の創建と伝えられている。元は武佐寺として一つでしたが、西と東に分かれ西は長光寺、東が広濟寺となったと広濟寺の武（たけ）住職は説明する。西生来町を越えると、老蘇地区が見えてくる。奥石神社と書いてオイソ神社と読む。地名は老蘇であるが、古くから中山道の傍の老蘇の森に鎮座し、大田道灌など有名人が往来している。神社縁起には、日本武尊（ヤマトタケル）と弟橘姫を祭祀したとあるが、一説にはキヌガサ山をご神体とする原始宗教から始まる神社だという説もある。市内の中山道の案内はここで終わる。北側の山には観音寺城跡や観音正寺があるが東近江市のエリアである。さて、問題だが、織田信長は近江侵攻にあたって柴田勝家など信長の有力家臣で四天王といわれた人物を近江に配置したが、近江に唯一城が無かった武将は四天王の武将のうちで誰か。

- ① 羽柴 秀吉 ② 明智 光秀 ③ 滝川 一益

答 ③

解説

秀吉は長浜城を、光秀は坂本城を与えられたが、滝川一益は伊勢に封じられた。滝川一益は甲賀出身の武将でしたが、近江の後方を支えるため伊勢に配置されたと考えられます。

9、長命寺

西国 31 番札所で知られる観音霊場である長命寺には古い歴史があり寺宝も多い。市にある国の重文は 70 点のうち 14 点が長命寺にある。景行天皇 20 年、武内宿禰が当山に登り「寿命長遠諸願成就」の文字を柳の巨木に記し長寿を祈ったら寿命が 300 歳まで保ったという。その後、聖徳太子が来臨されたとき、この霊木で観音像を刻めば霊験あらたかであると告げられ伽藍を建立したとある。(長命寺縁起によれば武内宿禰の開びやく、聖徳太子開基とある。) 延喜 12 年 (912) 延暦寺の末寺となる。三井寺の行尊による 33 か所観音霊場巡礼 (1107) に長命寺が記録されている。近江国守護の佐々木氏の庇護のもと大いに栄えたが、永正 13 年 (1516) 第二次伊庭の乱の戦火で諸堂宇が焼失した。織田信長によって焼かれたと云うのは間違い。安土桃山から江戸初期にかけて徐々に寺は再建されていくのであるが、そこに関わってくるのが穀屋寺の「長命寺参詣曼陀羅」と「熊野勤心十界曼荼羅」です。穀屋寺は長命寺再建の中心となった寺で、この曼荼羅も再建活動に供されたものです。本尊は重文で千手・十一面・聖観音の三体ですが、秘仏とされ 50 年に一度開帳されます。普段は三位一体の観音立像のお前立ちを参拝します。三重塔も重文ですが中は 大日如来坐像を 広目天など四天王が 囲んであります。長命寺集落は、かつて 門前町と同時に 港町でもあった。この集落から一直線に本堂まで 808 段の階段が続いている。長命寺から 中ノ庄～北津田へと続く旧道には「天之御中主尊神社」がありこの神社は神話の最初の神様を祀っている。全国にも信奉者が多くおられ東郷平八郎が揮毫した額がある。長嶋茂雄親子も参詣されています。山頂の巨岩・磐座は神宿る場所 (奥宮) とされています。中ノ庄の背後から北津田山に続く山々にも多くの巨石 (磐座) が点在し (白山) 信仰の対象とされています。北津田に至ると大嶋奥津島神社があります。大嶋神社 (大国主命) と奥津島神社 (奥津島姫命) の二つを指しています。境内社や境外社も多く、社伝によれば大嶋神社は成務天皇が即位 (131) した年、武内宿禰に勅し創建されたとある。昔はここの一帯を大嶋郷と云った。奥津嶋神社の由来も同じである。天智天皇が遊獵の際、食された「むべ」を今でも宮内庁に届けている。

さて、以上で長命寺から北津田町までの案内を終えますが、島学区のガイドはまだ続きます。ところで滋賀県人がよく歌う「琵琶湖周航の歌」には長命寺は西国何番と詠われているでしょうか。

① 十番

② 三十番

③ 三十一番

答 : ①

解説

長命寺は西国 31 番札所ですが、歌いやすくするため十番に変えているという。最もポピュラーな歌詞として長命寺が登場する 6 番目の歌詞は「西国十番、長命寺 汚れの現世 遠く去りて 黄金の波にいざ漕かん 語れ我が友 熱き心」です。大正の初め第 3 高等学校 (現京大) の寮歌として小口太郎が作詞し、吉田千秋作曲であるが当時「ヒツジ草」のメロディとして歌われていたようである。本来の西国十番札所は京都宇治の三室戸寺です。

10、白王～円山

現在の島町は奥島村と呼ばれた島であった、陸を結ぶ唯一の橋が渡会橋である。橋から真っ直ぐ北に向かうと奥村の集落である。裏山はイキヤ山系に連なる権現山である。山麓には古墳群が散在し古くから集落があったことが伺える。山には白山権現が祀られている。渡会の信号を道なりに行くと白王の集落に至る。白部と王の浜の集落であったが、現在は合わせて白王と呼ぶ。惟喬親王が皇位争いに敗れて琵琶湖に流れ着き、ここに上陸したことから王の浜と呼ばれるようになった。集落の若宮神社には惟喬親王を祭神とし、その時接待した食事を再現し神撰としている。また水行という行者講の行事（厄年の男性が裸に腰蓑姿で家々に置いた水を被る）も小寒の1/6に行なわれている。

八幡と奥島・長命寺を結ぶのが「長命寺古道」であり渡会橋です。渡会橋の傍に百々神社があります。祭神は猿田彦で神使は蛇である。橋下に大蛇が潜んでいたという伝説（「近江の昔話」）もある。橋を越えると円山に入る。円山神社は天孫のニギハミコを祀っている。円山城址もありここは、佐々木六角の支流の西条氏の居城があった所である。城は伊庭の乱（長命寺合戦）で焼失しましたが、その一族の中には遠江に逃れ今川家に仕えた頭陀寺城主で、木下藤吉郎を最初に雇った松下加兵衛之綱が子孫として伝わる。円山まで来ると周辺は西ノ湖でヨシ原である。一般的には西ノ湖の水郷と云っています。国の重要文化的景観第1号に選出されました。ヨシ原では「ヨシ焼き」があつて上質の葦（ヨシと呼ぶ）は、「すだれ・よしず」加工販売され、屋根の材料にも使われました。白王地先には、田舟を使わないと通えない飛び地の田んぼが7か所ありました。今は「権座」だけが残り、昔の原風景を残しながら「酒米・渡船」を作付けし「権座」という地酒を醸し造っています。白王・円山は「にほんの里100選」にも「ヨシを生かす水郷」として選ばれ、また、2006年にはラムサール条約にも登録され、2015年には「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの日本遺産」にも認定されています。観光シーズンには手漕ぎ船の水郷めぐりや八幡堀めぐりを目当てに訪れる観光客も多くあります。なお、白王地先になりますが、琵琶湖に突き出た伊崎山に役行者の開基とされる伊崎寺があります。その寺の年中行事として知られている行事が、毎年8月1日に行われます。起源は天台修験の修行の一つの捨身であるが、他にも湖上往来の船舶に喜捨を求めた名残りとも云われている。内湖が干拓される以前は、近郷から田船に乗った見物人が訪れ酒宴が繰り広げられ大いに振わったとされる行事名は何でしょう。

- ① 千日回峰 ② 施餓鬼会 ③ 竿飛び

答：③

解説

「伊崎の竿飛び」という。比叡山の若い僧侶が湖中に張り出した細い柱を歩き、隅から琵琶湖にお経を唱えながら飛び込むのである。昔は近在の若者も度胸ためしに飛び込んでいたが、酒を飲んでの飛び込みは危険だとして、近年は僧侶だけが行なうようになっている。千日回峰は比叡山の荒行である。施餓鬼会は8月のお盆に行なわれる仏教行事である。

11、寄り道を試みよう。⇒滋賀県でも有名な心霊スポットが近江八幡にあるよ。

場所は近江八幡市浅小井町から安土町香庄に至る境で県道2号線の左脇から見える森がある。周囲の広大な田園風景に不向きなぐらいぼつんと残されてある森である。新開の森というらしいが、一般には「シガイ（死骸）の森」と呼ばれている。その昔、織田信長の処刑場があった所だとも云われている。信長公記には、織田信長が安土城を留守にした時、城の女中たちが竹生島に遊びに行ったのを激怒して、女中の首を切った場所だとの逸話もあります。また安土問答（宗論）の発端となった法華宗の僧を処刑した場所だとも伝わっています。新開の森の木を切ると祟りがあるとして不自然に森が残されたのではないのでしょうか。地元では今宮大明神・天満宮の御旅所として利用されているようですが、昼でも一人で行くと怖いです。ましてや靈感の強い人がこの森に入ったら何かの囁き声が聞こえると云われています。さて織田信長が死んだときの、法名・戒名は次のうちどれでしょうか。

- ① 総見院殿 ② 善正寺殿 ③ 東照大権現 安国院殿

答： ①

解 説

織田信長公の法名・戒名は総見院殿です。秀吉が信長公の一周忌を行なった際に付けられました。総見院といえば信長公を指します。善正寺殿は、豊臣秀次公の名です。今も京都に同名のお寺があり、秀次公と瑞龍寺の代々門跡の菩提寺となっています。東照大権現といえば徳川家康公を神格化した際の呼び名ですが、法名・戒名は安国院殿と云います。覚えておきましょう。一般庶民は、普通死んだら「釈〇〇」ですが、偉い人には院号や寺号や神号がつけます。それで今までも「院号」等を頂くことを名誉と考えている風潮もあります。ちなみに豊臣秀吉の戒名は国泰祐松院殿ですが神号の「豊国大明神」が一般に知られています。

☆ここから【中級編】です

（注）この問題の見方……初級編については、最初に3択の問題を記し、次に答とその解説を加えています。しかし、この中級編に関しては、レベル・難易度も少し上げており、問題の数を増やして解説はあまり加えておりません。また必ずしも近江八幡が関係する質問になっていない問題もあります。あなたの知識や見識を試すものとして作ったものです。個人で作ったものですから、出題項目では似通った問題もあり、ここに出っていますが、ご勘弁下さい。でも回答は少しずつ変えてあるつもりです。

なお、中級編については、観光ガイドマニュアルには載っていない（ガイドしない＝ガイドの力量によって差がある）問題もありますので、ご理解の程、よろしくお願いします。

（作者注：西川秀夫）

【歴史編】

1、今昔物語巻第二十七 本朝付霊鬼「近江國安義橋鬼喰人語第十三」に出てくる鬼が出る橋はどこの川に架かっている橋ですか。市内にあります。1984年にはその橋を舞台に出没する鬼を退治に出かけた侍たちと鬼を描いた映画が作られました。それは「今昔物語」のなかの「安義橋の鬼女」の題材を映画化したもので「アギ・鬼神の怒り」という題です。ビデオ・DVDもあります。中村久美、伊武雅刀などが出演している映画ですが、ご存知ですか。知らなかったら検索して見て下さい。芥川龍之介の書いた「羅生門」は今昔物語の本朝世俗部第二九「羅城門登上層見死人盗人語第三八」を基に脚色したもので、また「羅城門の鬼」は、謡曲「羅生門」に登場するが鬼だが、本は平家物語の「一条戻り橋の鬼」を羅城門に変えたものである。

- ① 野洲川 ② 安曇川 ③ 日野川 ④ 犬上川 ⑤ 愛知川

答： ③・・・(倉橋部から竜王林へ行く所の日野川に架かる橋・・・安吉橋のこと) 余談だが、この安義の鬼を「今昔物語」で見つけて感動したものである。「安吉」という氏を持つ方が倉橋部町にお住まいであったが今はどうされたかは分からない。

2、江戸時代、上田秋成によって執筆された「雨月物語」の中には、高野山を舞台にした「仏法僧」という物語がありますが、そこに登場する亡霊は誰れでしょうか。豊禅閣ともいわれ無念の切腹であったと聞いています。7月15日が命日です。上田秋成の著書「雨月物語」を映画にした作品があり観たことがあります。舞台は京・近江でした。

- ① 織田信長 ② 豊臣秀次 ③ 千利休 ④ 豊臣秀吉 ⑤ 豊臣秀頼

答： ②・・・(高野山で切腹した豊臣秀次と小姓をモデルにしています。「仏法僧」という短い短編集です。) この「雨月物語」は映画になったこともあります。高野山には秀次公が切腹された場所と胴塚が残ってあります。

3、初代八幡城主の豊臣秀次はよく知られているところだが、小田原征伐の功により秀次が尾張清須城に移封したのち、新たに第二代八幡城主として移封してきて最後の八幡城主となった人物の名は誰か。秀次事件で八幡城は廃城となり、彼は大津城へ移転する。大河ドラマの「お江」の姉「お初」の夫と云えば分かるかな。初の威光で大名になったといわれ「蛸大名」と陰口をされたが関ヶ原合戦時において大津城での東軍としての戦功が認められて若狭小浜城主となる。

- ② 京極高次 ② 山内一豊 ③ 細川忠興 ④ 石田三成 ⑤ 蒲生氏郷

答： ①・・・(京極高次・・・近江佐々木氏の名家ですが浅井氏や織田氏などに圧されて没落していましたが、この人物が京極家を復活させました。弟に京極高知がいる。) 一方の近江の雄、六角家も一時は織田信長に攻められたが、嫡流の六角義郷が秀吉に召

し出され、秀次の家臣となり六角家を再興している。秀次事件で連座して殺された元六角家の家臣だった木村常陸介の子（後の木村重成・大阪城で討ち死）を庇護し養育したのが六角義郷だと言われている。この木村氏は安土常楽寺の常の浜にある木村城の一族かと思われる。

4、近江八幡市の西庄町出身の商人「西村松兵衛」が明治になって横浜で再婚した「西村ツル」は前の名は「檜崎竜」といい、寺田屋のおとせ女将や勝海舟や西郷隆盛とも顔なじみだったと云われる。この「竜」は前の夫の危機を裸で救い（寺田屋遭難という）、彼とは九州に日本最初の新婚旅行に行ったといわれる。幕府体制を倒し、新しい日本を作る目前で暗殺された彼女の前夫の名前は誰か。前夫の死後は各地を転々とし神奈川の料亭田中家で仲居として働いていたこともあり、その時、知り合った西村松兵衛と明治8年に再婚し西村ツルとなり横須賀で暮らした。彼女の墓は横須賀市大津信楽寺にある。墓碑には「前夫（名前あり）の妻」と刻まれているが松兵衛が建立している。

③ 中岡慎太郎 ② 大久保利通 ③ 坂本竜馬 ④勝海州 ⑤伊藤博文

答： ③ （坂本龍馬・・・龍馬の死後、土佐で暮らしていましたが龍馬の姉とそりが合わず、飛び出したそうです。西村松兵衛の名は西庄町にある寺の過去帳に載ってあるそうです。）坂本龍馬は土佐の人ですが、その昔、明智光秀と長宗我部元親は仲が良く、親戚付き合いもしていました。明智光秀が山崎の合戦で敗れた時、明智の系統（光春の系統か？）が土佐に逃げ込み、土着化し「才谷」村に住んだという。その子孫が坂本（坂本城の坂本）龍馬＝変名を才谷梅太郎と称していたということである。その証拠に坂本龍馬の家紋は桔梗である。坂本龍馬が暗殺されたとき、徳川は明智に恩義があり、徳川（新選組を含む）は犯人でない。むしろ薩長が怪しいと噂されたことがある。

5、政変（総称して応仁の乱という）により近江国に逃れて、九里氏が築城し当時、九里浄椿が城主をしていた浮城に匿われた。再起しようと軍を起こすが、その城で病没した足利幕府の第11代将軍は足利義澄である。また、その城内で生まれた足利義澄の長子の足利義晴は、後に第12代征夷大将軍となる。その城の名前は何と言うか。昔は内湖に浮かぶ島城であったので船でしか渡れなかったが現在は周囲を干拓され陸続きになって車で行ける場所である。山頂には土塁を巡らせた城址と居館跡がある。九里氏も10年後には佐々木氏に攻められ滅ばされている。九里氏居館跡は現・金田小学校の敷地にある。

④ 水荃岡山城 ② 円山城 ③ 安土城 ④ 長光寺城 ⑤木村城

答： ① （水荃岡山城・・・詳しくは郷土史家であった成沢邦正氏の著書「琵琶湖の浮城～水荃岡山城攻防史」をお読みください。近江八幡市図書館にあります。なお浮城と云われた城には、坂本城や膳所城も有名です。是非、お車ならお立ち寄りください

い。)近江八幡市内には31か所の城跡があります。近江八幡観光物産協会のホームページにも紹介されているのでご覧ください。県内には水口岡山城もありますので間違えないでください。なお長光寺城は柴田勝家が有名ですが、信長の家臣となった明智光秀が、織田軍として初めて戦に出た(初陣)のが「長光寺城攻め」であったことも記憶しておいてほしいと思います。光秀は後年、坂本城主となりますが志賀郡の宇佐山城や高島郡の田中城にもいたという記録も最近に見つかっています。足利将軍(義晴、義昭)が近江に逃れてきたという話には安土の桑実寺も忘れてはならないと思います。足利義昭も信長と上洛するときこの寺に滞在したと伝えられている。奈良時代に天智天皇の勅願によって創建されたといわれています。白鳳6年=677年に創建初代住職(藤原鎌足の長男、定恵)が中国留学の際、桑の実を持ち帰ったことから、この寺名が起こったと伝えられています。

6、江戸時代初期の有名な陽明学者で、元岡山藩池田家の家老まで務めた人物。若い時、中江藤樹の門下になるため、祖父の実家があった桐原村(現中小森町)で一時期を過ごし中小森町内には彼の居住した庵跡に顕彰記念碑もある。その人物の名は誰か。主要道に生誕400年を祝うのぼり旗が立っているのですぐに分かります。

- ① 頼山陽 ② 新井白石 ③ 熊沢蕃山 ④ 大塩平八郎 ⑤ 青木昆陽

答： ③ . . . (熊沢蕃山は岡山池田藩に仕えた陽明学者であったが、林羅山ら朱子学者と対立し、備前市蕃山に隠棲生活を余儀なくされた。しかし名声は高く古河藩に預けられた後も藩に頼りにされた。古河市内には蕃山沼と呼ばれる溜め池が残されている。)後年、大阪の陽明学者で与力であった大塩平八郎も彼の平等思想の影響を受けて「乱」を起こしており、吉田松陰も彼の影響を受けていたといえます。

7、本能寺の変で討たれた織田信長の「首塚」が静岡県の西山本門寺の境内にあります。本能寺の変のとき当時宿泊していた本因坊日海の指示により信長の首をここまで運び埋めたとされるお寺です。毎年11月には「信長公黄葉まつり」が行われます。元は芝川町でしたが平成の大合併でその都市に編入合併しました。同じく安土町も近江八幡市に合併したのですが、織田信長繋がり、妙な因縁を感じます。なぜなら、それまでは芝川町と安土町は全然関係なく、ただ近江八幡市とは富士山と琵琶湖の縁で都市提携(夫婦都市)をしています。今までは信長とは関係がありませんでした。二重の縁で結ばれた、その都市の名は何ですか。

- ① 松前町 ② 密陽市 ③ 富士宮市 ④ 小樽市 ⑤ 宇治市

答： ③ . . . (富士宮市とは夫婦都市提携をして金婚式を迎えました。松前町は、松前藩時代に八幡商人が蝦夷地の場所請負に活躍した縁で姉妹提携をしています。密陽市は朝鮮通信使の関係での国際姉妹都市です。)小樽市は場所請負で開拓された土地で

す。宇治市は、和邇の日触使主（日牟礼八幡宮の元になった氏族）の孫である菟道稚郎子が眠っている土地です。どちらも姉妹都市ではありません。兄弟都市もあります。アメリカのレブンワース市です。西部開拓の出発地と陸軍と刑務所で有名です。

8、近江の八幡商人には「ふとんの西川」＝西川甚五郎氏や、北海道の場所請負で蝦夷開発に貢献した恵比寿屋岡田弥三右門氏、住吉屋西川傳右衛門氏などが有名ですが、遠く海外ベトナムまで商売に行き、結果、徳川幕府の鎖国により、ついに日本に帰れなかった八幡商人もいました。その人の名前は何でしょう。現在、その屋敷跡は市立資料館になっています。隅に石碑と看板がありますが見過ごしてしまいそうです。

① 角倉了以 ② 茶屋四朗次郎 ③ 西村太郎衛門 ④ 角屋七郎兵衛 ⑤ 呂宋助左衛門
答： ③ （安南屋 西村太郎右衛門です。彼が日牟礼八幡宮に奉納した「安南渡海船額」（国重文）は有名です。西村嘉右衛門の弟……角倉了以は京都の豪商です。元は近江愛知郡の出だという。御朱印船貿易で財をなし京都・高瀬川の開削もおこなったという。その時、畜生塚があった所から出てきた秀次の累系を弔うため瑞泉寺を建立した人で、近江八幡とも関わりがある。茶屋四朗次郎も京都の豪商であり、徳川家康の伊賀越え道中を助けた人物として有名である。茶屋の屋敷があった周辺は茶屋町と呼ばれる。）角屋七郎衛門も伊勢商人で安南貿易に携わっています。呂宋助左衛門はルソンの壺で有名な堺の商人です・

9、絶えたはずの豊臣秀次公の子孫が生き延びていました。近江八幡市の洞覚院には秀次公と正室池田氏？（離縁）との間にできた娘「玉姫」の御廟所がありますが、おそらくそれは幼い時に亡くなったものです。ちなみに、秀次には累系がいましたが、秀次事件で、秀吉によってほとんどが処刑されてしまいます。そんな中で、秀次の継室一の台（菊亭晴季の娘、秀次事件で処刑）が生んだ娘だけが生き延びていました。彼女（隆清院＝なお又は清子ともいう。NHK大河ドラマ真田丸では＝岸井ゆきの演じる「たか」役となっていた。）は、真田信繁、通称真田幸村に側室として嫁ぎました。娘、息子を一人ずつ授かり、大坂の陣で信繁（幸村）が討ち死にしてからも、秀次の母（とも）を頼って、瑞龍寺に身を寄せたりしながら、逃げ延びることができたようです。その隆清院の娘、お田（おたあさま、御田姫・顕性院）は、大坂の陣のあと徳川方に捕まりますが、江戸の大奥で3年間働くという比較的軽い処分です。大奥といえば、江の居場所です。江の義理の兄、秀次の孫に当たる娘さんが、巡り巡って江のそばで働いていたのも不思議な巡り合わせです。大奥でのお勤めを終えたあと、お田は、出羽（山形・秋田）亀田藩藩主、岩城宣隆に見初められ、側室として嫁ぎ、跡継ぎを産みました。隆清院の息子、幸信も、姉のお田が嫁いだ岩城宣隆に引き取られ、亀田藩に仕えました。幸信は元服後、秀次が養子に行く前の元々の名字、「三好」を名乗りました。会うこと

さえ叶わなかった祖父の名前を、大事に守って生きたのです。隆清院・お田・幸信は今、秋田県由利郡岩城にお田が開いたお寺、妙慶寺のお墓で眠っています。妙慶寺は、顕性院が真田家菩提の為、寛永6（1629）年に建立した寺であるという。悲劇的な最期を遂げた秀次ですが、その子ども、孫はどうか生き延びて、厳しい運命に立ち向かい遠い地でがんばって生き抜きました。秀次の生きた証は、ちゃんと次の世代に繋がっていました。さて、ここで問題です。隆清院は真田信繁の側室でしたが、信繁の正室（竹林院）は誰の娘でしたか。その子ども（嫡男）に真田十勇士に数えられる真田大助幸昌がいるが大阪夏の陣で秀頼と共に討死しました。薩摩に逃れたという話もありますが想像の域をでません。

- ① 本多忠勝 ② 大谷吉継 ③ 伊達政宗 ④ 井伊直政 ⑤ 武田信玄

答： ② 関ヶ原で戦死した大谷吉継の娘ですね。 徳（竹林院）と云われました。大阪の陣で大阪城が落城し真田幸村が討ち死にして剃髪したといわれている。5人の子供のうち男子は戦死しているが女子は伊達家に匿われ片倉家に嫁いでいる。

10、1579年（天正7年）、安土城下の浄厳院で行われた浄土宗と法華宗との仏教に関わる論争のことを「安土宗論」又は「安土問答」という。織田信長の命により、浄土宗の僧貞安・霊誉玉念・洞庫等と、法華僧日珙・日諦・日淵らの間で行われたものである。もとは天正7年5月中旬、安土城下で説法をしていた浄土宗の僧侶（玉念）に対し、法華宗の信者が論争を挑んできた。この話を聞いた信長が、自分の家臣にも多くの法華信者がいるという理由で、「論争をしないように」と、双方に使者を送ります。浄土宗側は従おうとするが、法華宗側は勝つ自信があったため従わず、ついに問答で決着が行われる事になった。5月27日、安土城下の浄土宗の浄厳院で問答をさせた結果、法華宗が負けて、今後他の宗派を非難しない旨を記した誓紙を出させられました。この時の宗論に由来する読経（法要）が今も浄厳院で行なわれていますが、それを何と言いますか。

- ① 勝どき念仏 ② 祝詞奏上 ③ 賛美歌 ④ 恩徳讃 ⑤ 般若心経

答： ①勝どき念仏 （賛美歌はキリスト教における神を讃える歌であり、祝詞奏上は神社にて神様に祝い詞を指す言葉。恩徳讃は浄土真宗での仏教賛歌です。般若心経は仏教でのお経です。なお讚美歌236番＝神の国はヴォーリズさんが作詞しています。）
今でも安土の浄厳院では鉦や太鼓を鳴らして念仏を唱える「勝どき念仏」の行事が毎年行われています。ヴォーリズさんで特筆すべきことは、ハイド記念館の隣の教育会館に Hammondオルガンがあります。（パイプオルガンに似ています）日本にこの Hammondオ

ルガンを伝えたのはヴォーリズさんです。日本にヴォーリズが輸入代理店を開き、広く紹介したことにより普及しました。現在の浄厳院の地には、正平年間（1346年 - 1370年）近江守護佐々木六角氏の佐々木氏頼より建立された天台宗寺院の慈恩寺威徳院があった。慈恩寺はその後兵火により焼失した。天正5年（1577年）、織田信長は近江国栗太郡金勝山（こんぜさん、現・滋賀県栗東市）の浄土宗の僧・浄厳坊明感を安土に招いた。信長は慈恩寺の旧地に一寺を開き、明感を開山として浄土宗に改め浄厳院と名乗った。とある。天正7年（1579年）5月には、信長の命により浄土宗と日蓮宗の僧による仏教論争（いわゆる安土宗論）が当寺で行われた。裁定の結果、宗論は日蓮宗の敗北と決したが、この裁定の背後には信長の強い政治的意思があったといわれている。「信長公記」には次のように書かれている。「天正7年5月中頃、上野国の浄土宗長老玉念が安土に説法に来た。その席で法華宗の信徒、建部紹智と大脇伝介が異議を唱えて法論を仕掛けた。玉念は、若い二人では法門の深いところが出来ないから、頼りにしている法華僧を連れてきなさい。そうすれば返答しましょう。と答え、法華宗側からは、京都の日珙、日諦、日雄、堺の普伝日門を連れてきた。このことを耳にした信長は和解案を斡旋したが法華側は驕り高ぶって納得しなかった。そこで信長が仕切ることになり、南禅寺の長老を審判に指名し、副に因果居士（曹洞宗の僧で当時の知識人）を付け、織田信澄ほか堀秀政、長谷川秀一ら5人を奉行の差配と警備に付けた。会場は浄厳院で行われ、浄土宗側からは玉念と応援として安土西光寺の貞安・洞庫が臨んだ。」問答内容の詳細内容は省略するが、勝った浄土宗側には褒美が与えられ、負けた法華側では発端となった健部・伝介は打ち首（師の普伝も同罪で処刑＝普伝日門は永禄7年に本妙寺を創建し安土で布教を開始したという、その時、大脇伝介と建部紹智が普伝に帰依している）となり法華側では負けたという起請文（わび証文）を書き、黄金2,600枚を納めて法華宗の存続は許されたとある。決着の時、玉念は扇をかざして音曲に合わせて舞ったという。そこから勝どき念仏が始まったとされている。

11、「太閤素生記」に伝わる秀吉が最初に仕えた今川家の家臣の名前は誰か。彼の先祖は、もともと近江佐々木六角の一族で、市内の円山城の城主であったが、その子孫が三河国松下郷頭陀寺に住み着き「松下」姓を名乗った。家紋は佐々木氏と同じ四つ目結である。秀吉との出会いにより、今川家没落後は、家康に仕えていたが、秀吉が貰い受けて大名となった人物の名は。領地であった茨城県伊那町には国の重要指定無形文化財で『小張松下流綱火』というロケット弾のような花火が伝承されている。

- ① 太原雪斎 ②大久保忠教 ③松下嘉兵衛 ④松平元康 ⑤岡部元信

答え：③（松下嘉兵衛之綱）・・・秀吉により大名となり後に徳川家康に仕えました。秀吉が仕えた頭陀寺の松下家は情報収集の役を務めており、その手下となった秀吉は針を売りながら情報収集に努めていたが、織田家に潜り込み情報を取っていたようだが桶狭間の合戦で今川方が敗れたので、そのまま織田家の家臣となったという説もある。今川家が滅んだのちは徳川家康につかえていましたが、秀吉が家康から恩人であるとして（秀吉の最初の主人だった経緯から）もらい受けて家臣に加えました。之綱の息子の重綱は一時秀次にも使えています。秀吉死亡後は再び徳川に仕え初代二本松藩主になったとあります。

12、近江八幡市安土町には有名な神社が2つある。1つは全国の近江源氏佐々木一族の氏神（佐々木大明神）が祭られている沙沙貴神社（ささきじんじゃ）であり、もう1つは日本武尊の妃の弟橘姫命が、「我胎内に子在すも尊に代わりてその難を救い奉らん。靈魂は飛去りて江州老蘇の森に留まり、永く女人平産を守るべし」としたこと、安産の神社とされている。滋賀のパワースポットとしても有名な天児屋根命を祭神とする、その神社の名前は。

- ①安土神社 ②老蘇神社 ③奥石神社 ④大石神社 ⑤鎌若八幡神社

答え：②（奥石神社：おいそじんじゃ）太田道灌も京に上る途中に立ち寄り、歌を詠んだ碑がある。太田道灌の子孫が江戸期に草津宿に住み、酒屋酒造をはじめたことは覚えてほしいです。太田酒造といいます。まだ店は営業しています。太田道灌は室町後期・戦国初期の関東の武将で、扇谷上杉家の家宰であった。江戸城を築いた人物としても有名であるが扇谷上杉によって暗殺される。その後は、やがて伊勢宗瑞（北条早雲）が関東に進出して、後北条氏が台頭。早雲北条氏によって扇谷家は滅ぼされ、山内家も関東を追われることになり、上杉の家系は駆逐される。

13、「小田は良いところ お鍋の方が 殿をまねいたこともある」今も子守唄に唄われるお鍋の方は、一代の英傑”織田信長”の愛妾であった。小田神社のある小田町にはお鍋の方は住んだといわれる屋敷跡もある。お鍋の方は数多い信長の妻妾のなかで、唯一実名の判明している女性である。天正十年（1582年）六月二日 信長が本能寺で自刃、同十五日 安土城炎上のとき、側室お鍋の方を、ともかく敵方に囚われぬよう日野城へ迎え入れた人物は誰か。

- ①丹羽長秀 ②滝川一益 ③滝川益氏 ④蒲生賢秀 ⑤前田慶次郎

答え：④（蒲生賢秀：蒲生氏郷の父）佐々木六角氏に仕えていたが後、織田信長の家臣となった。その子が蒲生氏郷であり、伊勢松坂城主～会津若松城主となり、

伊勢商人や会津商人を輩出する切っ掛けとなる。いわずと知れた三井氏もその一人である。三井氏や伊庭貞剛なども近江商人と言えるでしょう。お鍋の方＝興雲院（きょううんいん）は、織田信長の側室の一人。近江国野洲郡北里村の土豪・高畑源十郎の四女。俗説では、はじめ近江国の八尾山城主（永源寺）である小倉実房（実澄）に嫁いで、この間に二人の男児（小倉甚五郎・小倉松寿）をもうけた。実房が蒲生定秀に攻められ戦死した後は信長の側室となり、織田信高・織田信吉・於振（水野忠胤・佐治一成室）をもうけている。余談だがお鍋の方は信長が死去した後は、信長の側室の代表的存在として行動し、織田家の位牌所を守ったとされている。子には織田信高（信長の七男）、織田信吉（八男）がいる。兄弟は関ヶ原では西軍に付いたが、のち信高の子孫は徳川の旗本として仕えたとある。彼の子孫にフィギアスケート選手の織田信成がいる。信吉の子孫は関ヶ原の後、水戸に移住し津田姓を名乗ったとされている。

14、六枚橋交差点を南に入るところに住蓮坊首洗池がある。住蓮坊首洗池は、後鳥羽上皇が法然上人の弟子・住蓮坊等の二人の僧の首を刎ね（承元の法難）、住蓮坊の首を洗った池とされるどころだが、その隣地に古墳らしき丘（千僧供古墳群）がある。その古墳は「壬申の乱で戦死した額田王、鏡王姉妹の父（鏡大王）の墳墓である」とされている。鏡氏は新羅の王子、天日槍の従者の末裔である。鏡の里の真照寺には額田王の父の墓が残されている。額田王は「あかねさす・・・」の蒲生野の相聞歌で有名だが、その額田王の姉であった鏡王女のご存じであろうか。中臣の鎌足の妻となり藤原不比夫の母となった人物である。では645年乙巳（いつし）の変（大化改新）で政権を蘇我氏より奪還し、百済を支援して白村江の戦いで新羅に負けた天皇は誰か。近江と深い関係のある人物で額田王の夫でもあります。

① 天武天皇 ② 皇極天皇 ③ 聖武天皇 ④ 天智天皇 ⑤ 景行天皇

答え：④（天智天皇） 天智天皇が亡くなり壬申の乱がおこるわけですが、鏡王は大友皇子（弘文天皇）側に付いています。ちなみに海人族の和邇氏や安曇氏は大海人皇子の側です。当然、大海人＝海人族のイメージですよ。一説には壬申の乱は新羅系と百済系の皇族を巻き込んだ古代での最大の内乱だといわれています。もっとも「乙巳の変」も蘇我氏滅亡の端緒となった出来事であるが、大海人皇子はその時どうしていたのだろうか。謎ですね。このあたりから日本書紀は藤原氏による隠蔽が行われた箇所だという人もいます。額田王の当初の夫は大海人皇子です。『日本書紀』には、鏡王の娘で大海人皇子（天武天皇）に嫁し十市皇女を生むとある。鏡王は他史料に見えないが、「王」称から2世 - 5世の皇族（王族）と推定され、一説に宣化天皇皇子の火焰皇子の曾孫といい、威奈（猪名／韋那）氏の同族とある。また、近江国野洲郡鏡里の豪族で壬申の乱の際に戦死したともいう。その額田王を天智天皇が見染めて自分のものとした経過があり。

この問題では、天智天皇という設定をしている。ちなみに、額田王の生んだ十市皇女（父は大海人皇子です）は大友皇子（弘文天皇）に嫁いでいる。地名である「千僧供（せんぞく）」の由来は、その昔、寛平年間（889～897年）に冷泉寺の前身である「曼荼羅坊」が清和天皇より、病魔に苦しむ人々の国のため、千人の僧侶を集めて病魔退散の起塔供養をしたことに縁を發し、「千僧供養村」と呼ばれ鎮護国家の勅願所となった。また千僧供古墳群は、近江八幡市の南東部の平地にある古墳群で、現在、供養塚古墳・住蓮坊古墳・岩塚古墳・トギス塚古墳の4基の古墳が残されています。この地域における5世紀中頃から7世紀にかけての在地首長の系譜をたどることのできる古墳群として重要です。地域が運営する”千僧供地域歴史資料館”にもお越しく下さい。住蓮坊古墳の隣には承元の法難で首を切られた「住蓮坊首洗い池」があり、又、千僧供町の「易行寺」には、「御僧塚」と呼ばれる住蓮坊・安樂坊の墓があるという。また京都の鹿ヶ谷には住蓮坊と安樂坊が草庵を営み布教していたという浄土宗の「住蓮山・安樂寺」があります。その寺では承元の法難（浄土真宗）を建永の法難（浄土宗）と呼びますが、同じ年に起こった出来事です。

【文化】

15、昔は、上野神社や日牟礼八幡宮の境内でも「馬かけ（競い馬）」が行なわれていたが、近年は全く途絶えていた。しかし「足伏の走馬」として復活させた市内の神社がある。それはどこか。御獵野乃杜（みかりののもり）とも云う。最近はその神社の近くに木曾駒の日本種の牧場ができた。

① 岡山神社 賀茂神社 ③五社神社 ④若宮神社 ⑤大島神社

答え：②・・・京都の賀茂神社の系統である。賀茂神社は上と下の分かれているが、どちらも賀茂一族で出雲系の氏族である。京都の三大祭りの葵祭は有名である。祭神は賀茂タケツノミ命と賀茂別雷神である。三本足の鳥がシンボルである。京都の上・下賀茂神社のある地域は当初は秦一族が開拓し、その後「出雲」系が住み着いた場所とも言われる場所である。糺の森には多くの祭礼遺跡がある。八咫鳥（三足鳥）は賀茂建角身命といわれており熊野神社（熊野で神武東征の道案内をした使い鳥）とも関係が深い。なお「三足鳥」は古朝鮮の高句麗でのシンボルでもあり、朝鮮半島との関係もあるのではと考える。韓国ドラマの朱蒙（チュモン）や広開土太王を見ていて三足鳥が使われていて、びっくりしました。サッカーのJリーグのシンボลมスコットも三足鳥ですが、それは明治にサッカーを日本に紹介し広めた中村覚之介という人が那智勝浦町の出身だったからです。神武と賀茂氏が関係するのは八咫鳥だけでなく「玉依比売命」という名前の人物も関係あるのです。神武天皇の母も「玉依比売・玉依姫」であり、賀茂建角身命の妃又は娘である賀茂別雷神の母も「玉依姫」というのである。近江八幡市の加茂町にある賀茂神社の祭神は「賀茂建角身命・賀茂玉依比売命・賀茂別雷神・火雷神」です。

【自然】

16、富山県、石川県、福井県が主な生息地であるが、滋賀県では近江八幡市だけに生息している珍しい生物がいる。昔、北陸からの産物が八幡堀を通過するときに、ここで船から下した荷物・材木等に付いていたとされている。その生物の名前は。

①北陸クモ ②イシカワムカデ ③ツルガマイマイ ④フクイガエル ⑤エチゼン
カミキリムシ

答え：③（ツルガマイマイ＝敦賀蝸牛）主な生息地は越前地方ですが、福井県はもちろん富山県、石川県にもいます。そして滋賀県近江八幡市もその分布図に記されていますのでWEBなどで確認ください。おそらく北陸からの船の荷について来たのだでしょうね。

17、市内武佐学区にある長光寺は安産の仏様として信仰を集めている。推古天皇の頃、聖徳太子によって創建されたという名刹です。このとき太子がお妃の平産を喜び植えられた木（植物）は何ですか。別名「はなかえで」とも「おたふくの木」ともいわれ市の指定天然記念物になっています。日本最南端に生息している植物学上も、貴重な木です。

① ハナイチョウ ②アカスギ ③ハナノキ ④ハナクソノキ ⑤ハナミズキ

答え③（ハナノキ）令和4年に聖徳太子没後1400年遠忌を迎えるにあたって、県内の聖徳太子創建・開基の寺院はプロジェクトで取り組んでいます。市内には関係する寺院は 長光寺、長命寺、願成就寺、と観音正寺があります。ちなみに長光寺は昔は広済寺（武佐町にある西本願寺系寺院）と併せて「武佐寺」と呼ばれたとあります。1355年、足利尊氏が後光厳天皇を連れて「江州武佐寺」に逃れたことが『太平記』で確認できます。広済寺の寺略に「当寺は所謂、武佐寺の一部にして推古二年甲寅二月聖徳太子、武阿綱に命じて伽藍を此の地に建立し賜ひ、之を武作寺と称す。村名、武佐の由りて来る所、蓋し此れによるか。由りて自ら彌陀の像を作り其の一堂に安置し名付けて東金堂と云う。即ち当寺是れなり。また別に観音の像を作りて別堂に安置し名付けて西金堂という。今の長光寺是れなり。当寺爾来天台宗に属せしが嘉禎元年(1235)四月見真大師(親鸞聖人1876年追贈) 関東より帰路の途次寄錫あり。寺主大師に謁して聞法随喜し直ちに師弟の契りを結びて其時より真宗に帰す。」とあります。中山道の武佐宿を訪ねられるなら、ぜひ、このお寺にもお寄りください。なお住職は「武(竹)」氏といい「武阿綱」或いは武淳川別(タケヌナカワワケ)とも関係ある方なのかも。

【街道・地理】

18、朝鮮人街道（ちょうせんじんかいどう）は、近江国（滋賀県）に存在した近世の脇街道である彦根道（ひこねみち）、京道（きょうみち）および八幡道（はちまんみち）

の異名である。中山道（上街道）との比較で下街道・浜街道、あるいは朝鮮人道、唐人街道などともいう。距離は約 41km。滋賀県野洲市行畑で中山道から分岐し、琵琶湖沿いを仁保～小船木から八幡へ入り西ノ庄・安土・彦根を經由して、滋賀県彦根市鳥居本で再び中山道に合流した。元元は織田信長が岐阜城から安土城を經由して京都に向かう道として整備したもので、それを秀次が八幡町を開町したときに、下街道を町中に繰り入れたのである。徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利し凱旋した街道として「戦勝街道」とも云われる。そのため將軍上洛用に使われ、参勤交代での使用は認められていなかったが、唯一朝鮮通信使には通行が認められていたためこの名がある。朝鮮通信使の通行は前後10回（通信使としては12回訪日）。宿泊地は彦根市の宗安寺で、「李朝高官の肖像」が残されている。昼食所として近江八幡市の本願寺八幡別院が使われ、現在も「従事官の李邦彦の書」が残されている。この朝鮮通信使の関連で縁地連の「第8回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会 in 近江八幡大会」が開催されました。その時、天和二年（1682年）第7回朝鮮通信使が、近江八幡の本願寺八幡別院で昼食を食べたという記録（慶應義塾大学図書館蔵「宗家記録」）をもとに三使（正使、副使、従事官）への饗応料理を再現製作もしました。その近江八幡大会を実施したのは近江八幡市と市国際協会（実はその時、私はスタッフをしていました）ですが、通信使行列には市民あげて協力しました。郷土資料館では饗応再現料理を作ったり、京都の高津商会で侍や行列の衣装を借り、対馬や韓国大邱（テグ）市の高校生楽隊、在日韓国民団・朝鮮総連も応援に来ていただき、その時だけは市内は朝鮮色に染まりました。では問題です（近江八幡大会があった）その年は何年でしょう。

①2001年 ②2002年 ③2005年 ④2007年 ⑤2010年

答え：②（2002年に開催した。メイン会場は八幡別院でした。当時は在日韓国・朝鮮団体も協力されている。）八幡別院の李邦彦の書は、現在、ユネスコ世界記憶遺産の登録がされています。今も全国縁地連絡協議会の主催で国内のどこかで行われていますが、韓国や対馬などに視察に行ったことが今でも懐かしいです。正徳元年（1711年）家宣第6代將軍の祝賀に趙泰億が正使として来たが従事官の李南岡（李邦彦イハソウ）が再来の感興を江戸からの帰路、七言絶句に書き残したのがこの書である。八幡別院は江戸時代は金台寺といわれており、秀次の開町時に安土から移ったとある。市発行の「八幡山の宴」には1764年に来朝した通信使を接待するために「宝暦14年正月朝鮮人来朝の節下行請取目録」と題した古記録（江州八幡町旅館 田中惣左衛門）が残されており、その記録により当時の献立を再現したとある。この記録には当時の献立だけでなく随員の数、宿割り当て、接待役人の名前まで詳細に書かれていた。上官クラスは八幡別院で、中官クラスは池田町の正栄寺、下官クラスは玉木町の蓮照寺、お供の方は京街道の町屋が提供された。と記録にある。

19、江戸時代に江戸・日本橋を起点として五街道が整備された。その五街道のうちで

第66番目の「武佐宿」を通して京都・三条大橋に至る街道の名前は何か。

- ① 東海道 ②北国街道 ③中山道 ④八風街道 ⑤東山道

答え：③（中山道、中仙道とも表記される。）最近は中山道ウォークで武佐宿に来る観光客も増えている。周辺には、伊庭貞剛の生家跡やその墓所、武佐宿の本陣・脇本陣跡も残っているので観光ポイントではある。少し足を延ばせば長光寺や長光寺城跡、千僧供古墳群や住蓮坊遺跡などがある。また安土駅の近くで沙沙貴神社の傍には、大正2年、建築家ヴォーリズ氏の設計により建築された木造住宅。発注者は住友の総理事で別子銅山の公害問題を解決したことで有名な『伊庭貞剛』、居住者は安土村村長や沙沙貴神社宮司など勤められ、画家でもあった貞剛の4男『伊庭慎吉』邸がある。洋風の外観を持ちながら、巧みに和風を取り入れたヴォーリズ初期の作品として貴重な建造物です。安土問答で有名な浄厳院も安土駅の近くです。ぜひ足を延ばしてみてください。最近では東海道は53次ではなく57次（京～大阪間で4宿追加）だとTVで紹介されていましたが、それは秀吉の時代に造られたものでした。

【観光】

20、近世初期より今日まで運用されている運河というか水路の名前。幅員約15メートル、全長6キロメートルに及ぶ。豊臣秀次が八幡城を築城した際、城下町として整備され、城を防御する軍事的な役割と琵琶湖の水運（当時の物流の要）を利用する商業的役割を兼ね備えた。八幡城廃城後の江戸時代には、近江商人（八幡商人）による町の発展に大きな役割を果たした。八幡商人はその堀を通る船の荷（積み下ろし）に駄別料を徴収し20～30年ごとの浚渫代に充てていた。しかし昭和になると、運河の機能を失った堀は、汚泥を掬い上げる「川ざらえ」（浚渫）が廃れ、川底にヘドロが堆積し、悪臭を放つようになった。昭和45年地元は堀の改修を市に陳情し、堀を埋め立てて公園と駐車場にする計画が立てられた。しかし、近江八幡青年会議所が中心になり堀を近江八幡の誇りとして蘇らせようと、改修計画の見直しを迫り、八幡堀復活を求めて署名運動・自主清掃活動を行った。1975年（昭和50年）、「よみがえる近江八幡の会」が設立され、堀の保存修景運動は、市民全体の運動へと展開した。そして、1976年（昭和51年）、堀の全面浚渫工事が着工された。昭和57年、国土庁の「水緑都市モデル地区整備事業」に指定され、堀の石垣が復元され、堀沿いに遊歩道・親水広場が作られた。平成4年、「近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区」として「新町通り」「永原町通り」「日牟禮八幡宮境内地」とともに国の重要伝統的建造物群保存地区として選定された。今では水運が復活し、「たそがれコンサート」で市民の憩いの場となり、また江戸を舞台とした時代劇ドラマや映画の格好のロケ地になっている。その水路の名前は何かと言っているか。

- ① 新町浜堀 ②宮内堀川 ③八幡堀 ④船木川 ⑤多賀堀 ⑥道頓堀

答え：③（八幡堀）八幡の町と八幡堀は、秀次の城代家老だった田中吉政が縄張り（計画）し、南津田の商人山形屋西川仁兵衛（西川甚五郎）が工事監督をしたという最初から商人の町として建設されています。町の運営は有力商人たちが入れ札で総年寄を決めて、自治をしていた。八幡堀は、江戸時代までは町衆が管理し浚渫などをしていました。

21、西の湖に和船を浮かべての水郷めぐりが、近江八幡観光の目玉の一つとなっているが、「春色、安土・八幡の水郷」として昔（琵琶湖国定公園が制定されて）から云われている景観名所のことを何八景の一つと言うか。

- ① 琵琶湖八景 ② 近江八景 ③ 湖国八景 ④ 琵琶湖周航八景 ⑤ 八幡名所八景

答え：① 滋賀県の風景と云えば近江八景という言葉が思いつくが、近江八景は、江戸時代の安藤広重の浮世絵で一躍有名になったが、琵琶湖全域から選抜された風景ではなく、昔の交通の要所となった琵琶湖南部に集中している。昭和25年（1950年）に琵琶湖が国定公園に指定されたのを契機に琵琶湖全域も含めた景勝地から琵琶湖八景が選定された。

【民俗】

22、近江八幡市の語源の「八幡」は日牟礼八幡宮からであるが、その日牟礼八幡宮の祭神は「応神天皇」となっているが、全国の八幡神社系統の総社は「宇佐八幡宮」である。元々は、宇佐八幡宮には応神天皇が拝んでいた鍛冶の神が祭られていた。宇佐八幡宮は、秦氏が創建したと伝えられ「八幡」とは「ヤハタ」と読み「秦氏の神」を意味する。「八」は八百万神の八であり八岐大蛇の八であり、古代から「八」は聖数とされ、八を用いた八十（やそ）、八雲、八咫鏡、同様に「数が大きい」という意味で用いられてきた。秦氏は弓月君を祖とする新羅系出身だろうと考えられている。さらに伏見稻荷大社も秦氏の創建で有名である。それはともかくとして、問題です。全国で一番、多い神社は何系統の神社であるとおもいますか。

- ① 八幡神社 ② 稻荷神社 ③ 出雲神社 ④ 山王神社 ⑤ 熊野神社

答え：（稲荷神社）・・・江戸時代に江戸で流行った言葉に、稲荷・八幡・犬の糞と多い物を並べた言葉があった。八幡も稲荷も元は鍛冶の神である。日牟礼八幡宮の祭神は応神天皇と神功皇后と比売神（宗像三女神）である。滋賀には大国主を祀った神社も多い。

23、近江八幡市の鬼伝説は「今昔物語」にも載っている程なので有名であるが、「鬼」といえば大江山の酒吞童子、羅城門の鬼の茨木童子、近江の伊吹童子も有名である。特に伊吹童子は日本武尊（ヤマトタケル）が伊吹山の神々と戦い負傷した時の手強い相手（まつ

ろわぬ者)である。この鬼の名に童子が付くのは、河童(カッパ)、山童(ヤマワロ)と同様に人間ではなく妖怪として扱われたということである。民俗学の柳田邦男は「妖怪とは神の零落した姿」とした。では、神話に登場する天目一箇神(=同一神とされるのが天御影命=三上山の御上神社の祭神)として扱われたり、一つ目小僧という妖怪として扱われた人々は、誰なのでしょう。「ひょっとこ」とも関連があります。

①木こり・杣人 ②獵師・マタギ ③鍛冶・タタラ ④山賊・盗賊 ⑤漁師

答え：③(鍛冶タタラ衆)野洲市の三上山にはムカデ伝説がある。ムカデは鉾山の象徴です。戦国時代、武田信玄も金山人足をムカデ衆として使っていました。三上山のムカデ退治をした俵藤太の物語にも、何らかの理由があるのでしょう。例えば鉾山からの汚水が、琵琶湖を汚し竜神が困っていたというようなことです。一方、タタラ衆は、鍛冶で火を見るから一つ目であり、片足で鞆(ふいご=送風機)を踏むから一本足として昔から描かれている。映画の「もののけ姫」にはそういう描写がありました。

【産業】

24、近江八幡市の特産品といえば、この食品が有名です。かなりインパクトのある色をしています。といっても別に辛子が入っているわけではありません。食べてみると、ごくふつうです。この独特の色は、三二酸化鉄という食品添加物によるもの。しかもこの「食品」は近江八幡の奇祭としても知られる「左義長まつり」と信長に大いに関係があったことをご存知ですか。もとはといえば左義長まつりは、安土城下で織田信長が自ら女装して踊り出し、より一層祭りを盛大なものにしたのが始まりといわれています。その後安土城が廃城になり、隣の八幡山下に八幡城下町が開かれたことから、多くの町人が安土城下から移り住みました。このとき、左義長まつりの山車に飾られる赤紙にヒントをえて、近江商人が考案したと言われる説がありますがはっきりしたことは分かっていません。ただ、近江八幡では昔から、冠婚葬祭や学校給食等で幼い頃から生活と共に存在します。色は、三二酸化鉄という鉄分で染められていますので健康的にも優れた食品です。地元では古くから親しまれている八幡名物。医食同源、美味健康とも言われる通り、「鉄骨〇〇=飲料ならぬ食品」とも呼ばれ、ノンカロリーのヘルシー食品としてダイエットにも最適です。その食品の名前は何か。

①近江牛肉 ②ちょうじ麩 ③赤こんにやく ④でっちょうかん ⑤ういろ

答え：③ 近江八幡の特産です。ぜひお土産にどうぞ。近江八幡市民に「こんにやくの色」を聞くと必ず「赤色」と答えます。一説では信長が派手な色を好んだから、こんにやくも赤色にしたという話もあります。「信長記」にある左義長まつりにも赤い色が使われています。

【産業】

25、近江八幡のヨシ産業は古く、信長時代にはヨシが年貢として納められていたと記されています。当市の円山町周辺には現在約50ヘクタールに及ぶ群生地があり、この地方のヨシは江州ヨシと呼ばれその品質の良さは全国的に有名です。一般的な用途は、すだれ・衝立・屋根や天井等の建材、茶畑の覆い等に使用されます。変わったところでは、ヨシの根は漢方薬として、熱を冷まし吐き気を沈める効果やふぐの解毒救急にも適していると言われています。近年は、ヨシを原料にして名刺や便箋等の商品開発が行われ身近な物となり世の中に出ています。また、ヨシで作られた楽器（ヨシ笛）が誕生したことで、ヨシ笛コンサートも開催されるなど、ヨシの果たす役割や魅力を訴える活動が様々な形で行われています。ヨシはイネ科ヨシ属の多年生草本です。万葉集や日本書紀等では「豊葦原」といい「ヨシ」という言葉は使われておらず、平安末期頃に生まれてきたようです。これは、当初使用されていた「アシ」が「悪し」につながるため、ヨシ「善し」に変化したとされる説があります。地元では中が空洞なものを「ヨシ」と呼び、中が詰まっている「オギ」というものを「アシ」と呼んでいます。余談ですが、江戸の吉原は元々「葦」が群生する湿地帯でしたが、「アシハラ」では、悪所とされる場所だけに「ヨシ」を意図的に使ったと云われている。漢字では「葦」と「葭」で区別している。「葦」と「葭」の違いをあえて言うなら「するめ」と「あたりめ」の違いです。また、ヨシの中で大声で鳴く「葦原雀」はそうぞうしい鳴き声から「行々子(ぎようぎようし)」ともいうが、なんという名前の鳥か。

①ウグイス ②ヨシキリ ③カイツブリ ④キジ ⑤ヒバリ

答え：② 琵琶湖の鳥といったらカイツブリが有名ですが、ヨシキリはスズメやウグイスの仲間です。

【国際】

26、イタリア・ロンバルディア州のマントヴァ市と近江八幡市は旧安土町との合併と同時に姉妹提携を結びました。マントヴァ市と近江八幡市（旧安土町）は何の縁で姉妹提携を結んだのでしょうか。

①安土城屏風絵 ②天正遣欧使節 ③水環境の保全 ④県と州が姉妹提携を結んでいるから ⑤全国信長サミットに加盟したから

答え：③（水環境の保全）・・・信長と関係あると思っていましたか？安土城下の屏風絵絡みと思った人も多いかと。信長は当時、日本でもっとも著名な画工（狩野永徳か）に描かせた「安土山図屏風」は、宣教師ヴァリニャーノを通じ、最終的にローマ教皇グレゴリオ13世に献上されたということですが、現在、その所在が分からないそうです。その安土山図屏風がみつければ幻の城といわれた安土城の全容も分かり、復元に一歩前進できるということです。なぜなら安土城を復元するため文化庁に請願をしたところ、その安土山図屏風が条件だったそうで、今でもその条件が生きていることから安土城復元プロジェクトも進展しないということ

す。ここで変わった視点で日本史を読み解く本に出会いました。信長が安土に拠点を定めたのは交通の要所もさることながら、信長の「原風景」＝信長が生まれ育った津島（＝津島神社）に似ていたからだということです。その本は竹村公太郎氏の「日本史の謎は地形で解ける」といいます。比叡山の焼き討ちも地形から見るとその疑問も解決するといえます。信長は比叡山の地形に怯えていたから徹底して僧侶を抹殺したのだそうです。この「日本史の謎は地形で解ける」はガイド会員仲間に紹介された本ですが、日本の平均寿命が延びて乳幼児の死亡率が激減したのは大正10年当時東京市長だった後藤新平氏が水道に液体塩素を混入して殺菌力を高めたからだ。とか、信長が石山本願寺と11年も戦ったのは、本願寺の場所・地形が欲しかったからだとの話もあり、もっと興味がある方は、自分で購入してお読みください。

【興行】

27、「平安楽土」から「安土」の地名が付いたとされる「安土」ですが、最近は違った説が主流になっています。岐阜の命名も中国の岐山から名づけたという説から、前からあった地名で土岐氏からきているという説に変わりつつあります。それはそうとして、JR 安土駅の南広場にある大きな相撲櫓。安土時代に織田信長が興行としての相撲を奨励し、東西制の導入や丸い土俵の原型を考案者したとされています。それまで相撲は神事であり祭りであり武芸であった。信長自身が小さい時から相撲好きであり、何回も大相撲安土場所を主催していると「信長公記」にも相撲の記載あり。そのため元亀元年（1570）に織田信長が開催した相撲興業が近代相撲の発祥と言われています。安土は相撲発祥の地ということでこの土俵櫓のモニュメントがあるのです。相撲といえば垂仁天皇7年（紀元前23）7月7日、当麻蹶速（たぎまのけはや）と野見宿禰（のみのすくね）の話があり奈良県桜井市と當麻町が「相撲発祥の地」とされているのではないかと疑問を持ちましたが、安土は、「近代相撲の発祥の地」といわれているのですが、「近代」という2文字が付いているのですね。余談ですが、両国国技館には相撲好きだった信長が相撲の取り組みを見物している姿が壁に大きく描かれているそうです。国技館での弓取りの儀式も安土で信長が行った相撲の勝者に弓を与えたことから始まっているそうです。安土では天正6年から9年の間に7回も相撲が行われていると信長公記にあります。特に天正8年8月には近江国ならず近隣からも1500人が参加したとあります。天正7年の相撲では甲賀郡土豪の「伴正林」という若者が7人抜きを行い屋敷も与えられ百石の知行で召し抱えられた（厩番まで出世＝厩廻は信長の親衛隊）とあります。厩廻衆は信長自慢の機動戦力であり、桶狭間の合戦でも今川義元の首を取ったのも服部

(小平太)一忠と毛利(新介)良勝の厩廻であった。相撲により登用された「伴正林」は甲賀の伴一族だとされるが、本能寺の変で、伴太郎左衛門(八幡商人の扇屋伴莊右衛門・伴伝兵衛の祖)と一緒に明智の兵と戦い討ち死にしています。信長の厩廻衆の主だったものは討死し、それで本能寺で信長の自慢の厩回衆が崩壊したのです。「安土」という名前について最近、元々は「安曇(アド・アツミ)族の住んだ地」=アドの地=アドチ=安土になったという説が有力になってきました。いわゆる海人族です。今、安土山と称しているのは安土城があった場所だからですが、本当は「目賀田山」に目を付けた信長が、「安土」という地名が気に入って自分の城にその名を付けたいらしいです。ではここで問題です。大河ドラマ「麒麟が来る」で日の目を見た明智光秀ですが、信長の臣下となって、初めて初陣したのは〇〇城攻めでしょうか。市内にある城址です。

① 目賀田山城(安土城) ② 北ノ庄城 ③ 八幡山城 ④ 長光寺城 ⑤ 木村城

答え：④ 長光寺城 織田信長は、目賀田山城の跡に安土城を築いています。目賀田山城跡にまずは中川重政が佐々木六角氏の抑えとして配置されておりますが、中川氏が柴田勝家と諍いを起こし追放の後、信長の居城として新たに現在目にする安土城が建築されたのです。その安土城が建築するまでの間は、信長は安土にあった時は木村城に滞在しています。その他の佐々木六角氏の支城であった、北ノ庄城は、既になく、八幡山城は、信長の亡くなった後に豊臣秀次が城をきずいた場所です。佐々木六角氏の支城であった長光寺城攻めは、近江侵攻で明智光秀が織田家臣として初陣した戦だといわれています。長光寺城には柴田勝家が入城し越前に転封になるまで城主でした。最近、明智光秀に関しては出身地は岐阜ではなく、滋賀県多賀町佐目というところであり、そこには「十兵衛屋敷」跡もあるという説が出てきている。やっぱり大河ドラマの影響は凄いですね。なお厳密に言えば当時の安土山は観音寺城に連なる目頼田(目賀田)山であり、後年信長築いた安土城とは別のところにあったといえます。ただ正確な場所については郷土研究者でも明言されていないようにはっきりとはしていません。1570年、六角義賢らの残党に備えた際に、信長は近江の分封支配に、琵琶湖の周辺に、長光寺城には柴田勝家、宇佐山城には森可成、永原城に佐久間信盛を配置しています。その時、中川重政(織田の一族)は安土城に配置されたと記されています。つまり中川重政が封じられた安土城と、信長が築いた安土城は別のものであったという事ですね。この少し後(一年後)の姉川の合戦時に羽柴秀吉は横山城に置かれ、佐和山城には丹羽長秀が置かれた。坂本城に明智光秀が入るのは後年の宇佐山城の森可成が討死し比叡山の焼き討

ちがあった後のことですが近江の分封支配は完成します。ただ中川重政については隣接領の柴田勝家と諍いを起こし信長により蟄居追放処分となり、1572年には許されて、新たに信長が城主となった今でいう安土城の留守居役に復帰をしています。

【経済】

28、近江商人の商売の方法はいわゆる「のこぎり商法」といわれるものであったが、江戸時代中期になると蝦夷地に渡り、松前藩士の知行地の「場所請負制度」と言って、知行主に運上金を納めさえすれば、その場所からとれる産物を流通交易（産物廻し）したり漁場開拓などの商売で北海道開発に携わって貢献した近江商人も多くいる。八幡商人では、古平・小樽を拠点として活動し、登別温泉を発見したとされる屋号を恵比寿屋又は松前屋と称した八幡商人は誰か。今もその豪商の屋敷は残っているが子孫は東京にいるらしい。

① 岡田弥三衛門 ②西川傳右衛門 ③伴伝兵衛 ④藤野喜兵衛 ⑤西川庄六

答え：①（岡田弥三衛門）八幡商人で他に蝦夷地に渡って商売したものは西川傳右衛門がいます。屋号は住吉屋、中一商会とも言います。第10代西川貞二郎はカニの缶詰工場や醒ヶ井の養鱒場を作ったりしており、八幡銀行の頭取などを歴任し八幡町名誉市民にもなっています。分家の西川吉輔から養子になった第11代西川吉之助は娘・濱子が聾であったことから聾教育に熱心であった。また伴伝兵衛家については面白い話が伝わっているので長文になるが簡単に引用しておく。伴伝兵衛家は、大伴氏の後裔で、近江国甲賀郡（後の伴谷村、現滋賀県甲賀市水口町）の郷土より、織田信長に従い天正10年（1582年）本能寺の変において討死にした伴太郎左衛門尉資家（いわゆる甲賀忍者）を遠祖とし、一子資規が武士を捨て商人になったと伝わる。初代伝兵衛は近江の八幡城下出身で、麻織物、蚊帳、畳表などの行商から身を立て、江戸開府後いち早く日本橋に出店（屋号『近江屋』・『扇屋』）し、多くの大名家を顧客にしていたとされる。2代目伴伝兵衛は江戸初期明暦年間（1655年-1657年）に江戸日本橋『近江屋』の主人であったことが知られている。ある年の大晦日伝兵衛が年末の挨拶に筑前梁川藩邸を訪れた時、暇を持て余していた藩主立花左近将監は、伝兵衛訪問を聞き早速囲碁に誘った。左近将監も伝兵衛も大変な囲碁好きで、身分を越え囲碁の好敵手であった。早速二人は盤を囲み囲碁を始め、夕から夜へと時間が進み、商家主人として正月の準備をしなければならない伝兵衛は、「そろそろ暇を」と左近将監に声を掛けたが、その度に「今少し」と言われ、囲碁好きな伝兵衛もそう言われるとついつい盤を囲み続けてしまった。勝ち負けを続け深夜となり伝兵衛は流石に「松飾りなど、正月準備をせねばならず、これにて失礼させていただきます」と言ったところ、「ならば松飾は必ず立派に作らせるほどに、今宵は緩々と」と左近将監言われ、命ざれるままに勝敗を重ね、ついに鶏の音が聞こえる頃、

漸く勝負も就きはじめ囲碁はお開きとなった。翌朝、店の前に帰り着くとそこには、その頃の江戸の商家には絶えて見なかったほどの立派な松飾りが立てられていた。伝兵衛が家人に尋ねると立花候の家来が7人8人来て立派な飾りを立てていったとのことであった。年明けに、これは商売繁盛の吉兆と伝兵衛が喜んだところ、江戸中に近江屋の松飾りが評判となり、大いに店の名を高めた。これより毎年、立花候の家来により松飾りが立てられるのが恒例となり、幕末慶応年間（1865年-1868年）迄続いたと伝えられる。伴伝兵衛の『近江屋』は日本橋商家繁盛の始めとも言われ、伴家の繁栄はその後も続き、八幡3大商人（西川甚五郎・森五郎兵衛と伴伝兵衛家又は西川庄六家）の一つにも数えられる。なお現在、旧伴家住宅としているのは分家の伴荘右衛門家であり、伴伝兵衛家はその隣にあったが今は小幡観光駐車場になっているところであり、蔵だけが伴伝兵衛家の名残を留めている。またその蔵から森蘭丸の甲冑が出てきたという話は、甲冑コレクターの間では有名な話です。

29、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏は明治38年に日本に来て、色々なものを日本に伝えました。キリスト教の伝導では今に至るヴォーリズ建築やメンソレータム（現・メンターム）などです。案外知られていないのですが、「 Hammondオルガン」を日本に紹介しその代理販売もメレル・ヴォーリズさんが手がけています。近江兄弟社学園（ヴォーリズ学園）の教育会館（有形登録文化財）にはその Hammondオルガンがありますので、一度ご覧になってください。見学は無料ですが、開館日時・時間が限定しているため予約等連絡されてからいかれるほうが良いでしょう。ついでに、隣の「ハイド記念館」＝一柳満喜子さんの作った幼稚園＝清友園舎もおすすめします。ハイド記念館にはヴォーリズさんが直接、アメリカから持ってきた品物が今も展示されています。さて、それは何でしょう？これは来日時、直接、現地（ハイド記念館）で見た方でないとわからないと思いますが、想像してみてください。

- ① カバン ② 柱時計 ③ 籐の椅子 ④ 暖炉 ⑤ 机

答え：① カバンです。トランクともいいます。これには面白い話があって、当時、アメリカから荷物を送ったが、ヴォーリズさんが八幡町についても一向に荷物が届かなかったらしい。行き先を必死に探した結果、九州の八幡（ヤハタ）町＝八幡製鉄所があったところに行っていたということです。「八幡駅」だけでは当時の国鉄の人でも迷ったことでしょう。また一柳満喜子さんはヴォーリズさんと出会う前、ヘボンさん（ヘボン式ローマ字で有名）やフルベッキ（フルベッキ写真群像で有名な人＝長崎で維新派の人に影響を与えました）さんに英語などを学んで留学しています。ハイド記念館にある紹介パネルで一柳満喜子さんの経歴を知り驚いたのを記憶しています。一柳満喜子さんの実兄は広岡恵三といい広岡浅子さんの娘婿です。NHK ドラマ「朝が来た」では熱心に見た記憶があるでしょう。

【古代】

30、古代にも思いを馳せて目を向けよう。その昔、近江八幡は和邇氏の日触使主（ひふれのおみ）命という者の支配地であった。藤原不比等の和歌にある「比布礼の森の八幡かな」の和邇の日触使主命である。和邇氏は和邇族ともいわれる海人族で出雲風土記に出てくる「ワニと稲羽の白うさぎ」のあのワニである。記紀の応神紀には、応神天皇がこの地に行幸（八幡祭の起源とされている）に来た際、日触使主命の娘＝宮主宅媛を見染めて妃にしたとある。和邇氏は大津にも「和邇浜」「小野神社」などの名を残している。和邇の別れ氏族には小野氏をはじめ、山部氏、柿本氏、春日氏、など和歌の歌人で有名なものが多数いる。一井（市井）氏のように日牟礼八幡宮の神官を務めたものもいる。（今現在は岳氏が宮司である）この和邇氏の日触使主命の娘の宮主宅媛と応神天皇の間に「菟道稚郎子（うじのわきいらつめ）命」という皇子がいたが、異母兄のオオサザキ（後の仁徳天皇のこと）に王位を譲って自殺（王位争奪に敗れて実際は殺されたのだらうと思う）したという。その「菟道稚郎子命」が住んでいたところ（宇治市）に神社が立っている。それを「宇治神社」（＝上下の2座ある）という。祭神は、「菟道稚郎子命」である。宇治川を挟んでその向かいには宇治の平等院があるのでわかりやすいです。この皇子の名の「菟道」とはウサギの道という不可解な名前なので憶えやすい。なぜなら、ワニの息子がウサギなのだから。では、ここで簡単な問題です。応神天皇の母は、だれでしょうか。という問題です。父は「仲哀天皇」です。仲哀天皇は日本武尊の子どもです。日本武尊の関係する神社は滋賀県一の宮・建部神社が有名です。昔の千円札にも日本武尊と建部神社が載ってあります。日本武尊は伊吹山の賊と戦い、その時の傷がもとで亡くなり、白鳥となってどこかに飛んで行ったという伝説をもった人物です。伊吹山に近い処にいた古代豪族といえば息長氏だろうか。伊吹山でヤマタノオロチに遭遇したというから製鉄民の可能性もある。

- ① 鏡王女 ② 額田王 ③ 神功皇后 ④ 木花咲耶姫 ⑤ 弟橘媛

答え：③の神功皇后です。福岡の宇美町には神功皇后が応神天皇を生んだ場所とされる「宇美神社」があります。神功皇后は別名、息長帯足媛とも言われて、近江の息長族の一族というように考えられています。古代近江には息長氏、安曇氏、和邇氏の海人族が住んでいたわけですが、また、鏡王女と額田王は姉妹であり竜王町の鏡の里の豪族「鏡王」の娘であった。元は天日槍（アマノヒボコ。ツヌガアラヒトとも称される）とともに来日した渡来民だとも言われている。天日槍は息長氏とも関係があるとされる。神功皇后の三韓征伐や応神天皇の誕生には5代の天皇に仕えた「武内宿祢」が重要な役割を担っていますが、武内宿祢は蘇我氏の祖であり、藤原氏編纂の記紀には聖徳太子と蘇我氏が表裏一体にして記されているように唱える学者もいます。ちなみの令和4年は聖徳太子没後1400年ということで、聖徳太子創建の寺院では遠忌祭がされるそうである。

六枚橋交差点を南に入るところに住蓮坊首洗池がある。住蓮坊首洗池は、後鳥羽上皇が法然上人の弟子・住蓮坊等の二人の僧の首を刎ね、住蓮坊の首を洗った池とされるところだが、その隣地に古墳らしき丘（千僧供古墳群）がある。その古墳は「壬申の乱で戦死した額田王、鏡王姉妹の父（鏡大王）の墳墓である」とされている。鏡氏は新羅の王子、天日槍の従者の末裔であると記す文献もある。鏡の里の真照寺には額田王の父の墓が残されている。額田王は「あかねさす・・・」の蒲生野の相聞歌で有名だが、その額田王の姉であった鏡王女のご存じであろうか。中臣の鎌足の妻となり藤原不比等の母となった人物である。奈良の興福寺や春日大社は藤原氏の創建であるが、奈良の鹿はシカ＝志賀に通じるから海人族の安曇族と関係するのと思ったが、全然違っていた。春日大社の祭神は「建御雷神」で大国主の国譲りの時に建御名方神と争った神であり、鹿島神ともいわれる神であった。建御雷神が白鹿に乗って鹿島から奈良に降臨されたという故事に基づいての「鹿」であった。ただしである、興福寺の前身の山階寺を創建した「鏡王女」は近江の古代豪族の出身（近江の主な氏族である、安曇氏、息長氏、和邇氏、安氏などは全て海人族）であることから、海人族とは多少の関係もあったのではないかと思う。これは想像の域だが、「建御雷神が白鹿に乗って鹿島から来た」という故事は鹿＝志賀＝安曇氏＝海人族の船ではなかったのだろうか。・・・・古代の近江も面白いですよ。先ほどの近江の氏族である、安曇氏、息長氏、和邇氏、安氏などを調べて分かったことですが全て海人族といわれる人々です。秦族も愛知郡に居住していますが彼らも又、海洋渡来民だといわれていますね。だいたい「滋賀県」の滋賀からして、元は「志賀」であり＝志賀の島（福岡）と金印＝シカ＝安曇族＝安曇川・安土など湖国に居住していたので、その土地の地名になっている。このように古代史はミステリーに尽きる。聖徳太子でさえ、実在しなかったといわれて教科書から消えてしまっている。ましてや、神功皇后に限らず、アメノヒボコやスサノウ、ヤマトタケル、武内宿禰などは古代史上、最もあやしい謎の存在である。いわば研究者からすれば魅力的なのであろう。最近は色々な書籍も出されている。「乙巳の変」で姿を見せなかった大海人皇子が突如壬申の乱の主役になっている。これは日本書紀編纂に藤原氏の捏造があったという説まである。身近な存在でいえば、織田信長が倒された「本能寺の変」の黒幕は誰かという＝真相を探るような面白さがある。また、魏志倭人伝など中国の史書に登場するが記紀には登場しない「邪馬台国の卑弥呼」という人物は誰なのか。畿内説で有力なのが神功皇后と倭迹迹日百襲姫命（やまとととひももそひめのみこと）である。（倭迹迹日百襲姫命は第7代孝霊天皇の皇女で、三輪の大物主と交わり、箸墓古墳に葬られたといわれる。そのため箸墓古墳こそ卑弥呼の墓だと伝わる。箸墓は纏向遺跡の属する。）魏志倭人伝の卑弥呼は2世紀中頃（西暦140年の中頃）とされている。神功皇后の三韓征伐が本当なら広開土王碑の記録にある倭の侵攻は西暦399年～400年である。また箸墓も4世紀に造られたと推定されている。どちらも年代的に合わないのである。これ（卑弥呼）に当たる記紀の人物は今一人、天照大神であるが、これも神話であり、いまだに

謎である。

【まとめ】

中級問題も一応30問で終わっておきます。まだまだ近江八幡市にはいろいろな話が伝わっています。例えば、今の子は童謡・唱歌をあまり知らないでしょうが、しかし童謡・唱歌のなかで、近江八幡市の商家にあったものをルーツとしている歌があります。それは、「花嫁人形」です。戦争で添い遂げられなかった・・・悲話なのだそうです。このお話の花嫁人形は実際に存在していた、近江八幡市のあるお屋敷に最近まであったということです。また勸修寺（かじゅうじ）ユースホテル。今では名前も変わって近江八幡ユースホテル。登録有形文化財『明治の館』として活用されながら保存されています。別名「狸御殿」ともいいますが、昔は明治橋の近くに出来た「勸業館」を移築したものです。特産品でも「赤こんにやく」は取り上げましたが「丁字麩」「丁稚羊羹」はまだ出題していません。地場産業では畳表・蚊帳・八幡瓦の他に数珠（木珠）、八幡靴、押絵細工、八幡鉄瓶（日本梅泉）などがあります。

私は観光ボランティアガイドをしている関係で各地に研修にも行かせていただきますが、いろいろな感動があります。最近では、和歌山市での雑賀崎、紀州東照宮（ここに沙也加の碑がありました。韓国大邱の友鹿洞は沙也加の里といて有名ですが）和歌山城、本願寺鷺森別院や、奈良の三輪山（神社）、箸墓や百舌鳥古墳群、名古屋の有松（伝建）地区（ここは比較的、桶狭間古戦場に近かったので歩いて見に行きました）、清州城（秀次が八幡城から尾張100万石で移封した城）や静岡県三島の山中城（障子堀で有名。秀次が小田原合戦で戦って一柳直末が戦死した処＝一柳氏の碑と一柳直末の墓があった）葦山反射炉、蛭が小島（源頼朝が流され北条政子と出会った場所）など、遠くは鞆の浦（朝鮮通信使の寄港地で李邦彦の日東第一形勝の書がある。近くに関ヶ原合戦時の安国寺恵瓊の安国寺や山中鹿之助の切られた場所もあった）や山形市の山形城（資料館で成沢氏の祖先を確認。あの大きな山形城郭から東近江市にある大森陣屋跡を見ると改易の無残さを感じました）や駒姫の墓所（秀次事件で斬首された最上義光の娘）にも行かせてもらいました。どれも歴史好きの私にとっては非常に魅力的でした。この感動を近江八幡市に訪れる観光客にも少しでもお裾分けしたくて、ガイドを続けています。この問題も、観光ガイドを補完するものとしてご活用いただければありがたいです。本当は、もっと多くのガイド会員に携わっていただき、多方面からの問題を作りたかったのですが・・・そうすればもっと違った観点・視点からの切込みも可能だと思のですが・・・残念です。もし、これをご覧になった方で、陽の目を見るように働きかけていただければありがたいです。具体的には近江八幡観光ボランティアガイド協会（表紙に連絡先記載）にFAX/メール等で要望していただくと助かります。（作者：記）

【その後の経過】

この問題は、市及びハートランド推進財団が通常のガイド活動とは別の新しい事業を実施した場合に補助するという補助金制度を活用して実施しようと計画したものでしたが、前述のとおり役員会で却下されたものです。しかしながら事務局長という立場からしつこく食い下がり、2022年3月20日に創立30周年を迎えることから、30周年記念事業に「検定（仮）の検討」を加えてもらいました。今、30周年記念事業委員会が立ち上がり、「記念小冊子・式典・永年表彰・（仮）検定の検討」の4事業の計画と実施に向けて、ようやく動き始めたところです。しかしながら、この「検定の例題問題」については、問題が難しいから小学生にでも分かるものにしてはどうかという意見もあって、おそらく、今回ここに示した問題は没になる可能性大となっております。ガイド内容を補完するという趣旨でのクイズ問題でしたが、私の意図したことと大きく外れていくことは目に見えております。またハートランド推進財団では今年も補助金の募集をしておりましたが、私以外にその補助制度を活用していこうという方は見当たらなかったもので、期待感は望み薄いです。

参考に、その時の補助金応募用に書類を作ったのですが、一部を掲載しておきます。

(1) 団体概要と(3) 予算計画書は、関係ないので省略します。

(2) 事業計画書・・・これは当初にテキスト本の補助金をもらうために作成したものです。

(*いずれの日か、これを利用する日もあろうかと期待して、ここに残します。)

事業名	近江八幡観光まちかど検定 事業
事業実施区域・会場	近江八幡市域、
事業の動機	近江八幡観光ボランティアガイド(VG)協会(八幡支部)は、平成4年(1992)に活動を始めてより、もうすぐ創立30周年を迎える。その中で現在の会員も年々高齢化しており、毎年養成講座等で新規会員の獲得を必要としている。しかし定年制延長等の趨勢で思うように会員が集まらないのが現状である。そこで当協会(八幡支部)の存在を内外に宣伝し、さらには本市を訪れる観光客や市民向けに郷土の歴史文化をもっと知っていただき愛着を深めて頂きたい、との思いからの発案です。
事業の目的	時代劇のロケ地の八幡堀やヴォーリズ建築などで本市を訪れる県内外の観光客も増加しているなかで、近江八幡市のことをもっと知りたい、学びたいと思う人達(市民も含む)に向けて実施し、より一層「近江八幡市」を好きになっていただく機会として実施する。まちの歴史・文化を愛する人で広く紹介したいと願っている人や町の魅力を自信をもって案内できる人材育成を目指します。観光客におもてなしをする商店街や地域の活性化を願っている人にも活用いただけます。

<p>事業の内容</p>	<p>・当協会（八幡支部）創立 30 周年事業の一環として実施するが、通常のガイド活動とは全くの別事業である。</p> <p>・第 1 回の「検定」を 2020 年の夏～秋頃に実施する。以降毎年「検定」を実施する。</p> <p>そのための公式テキストとして、当 V G 協会が保有する「ガイドマニュアル」の中からコースを選択して（仮称）「近江八幡の見所ガイド」を製本出版し、検定時の出題「検定公式テキスト本」とする。・・・当該補助金額を限度枠まで使い「印刷製本」し、最低 3 年間は使える部数を揃えたい。今回の補助金はすべて印刷製本費とします。検定問題はその都度、検定委員会で内容を検討する。</p>
<p>事業のスケジュール</p>	<p>2020 年 2 月中～3 月末：「検定公式テキスト本」の内容選定、→ 必要数の印刷製本</p> <p>2020 年 4 月～7 月：検定委員会の立上、→出題内容の検討、申込み期日や受付方法、試験会場、検定試験の告知方法、初級・中級・上級のコース検討、検定特典、検定試験当日のスケジュール、役割分担等。</p> <p>2020 年 8 月～9 月：検定試験の実施→合格発表、認定書授与、問題の回答と解説</p> <p>2020 年 12 月～1 月：ふるさと観光塾の受講要請、検定受講者の入会勧誘</p> <p>2021 年 8 月～9 月：第 2 回検定試験を実施。ただし日程については第 1 回検定試験を終えた後に検討する。</p> <p>2022 年：第 3 回検定試験を実施：以降も同様とする。</p> <p>但し、初回は初級（小学生向き）のみ、2 回目は初級と中級（中学生）、3 回目にして初級、中級、上級（高校生以上）の出題とする。上位級への受講は、認定級で区別する。</p>
<p>期待される効果</p>	<p>① 公益性：検定試験の実施とそれに伴う「テキスト本」の発行により、より多くの市民が郷土の歴史文化に関心と理解を持つと共に、訪れる市内外の観光客に対してもガイドでなくとも一般市民がテキスト本参考でちょっとした説明が可能である。また、この事業を通じて V G 協会の存在を知り、会員拡大につなげていきたい。</p> <p>② 先駆性：各地で御当地検定はされているが、本市では未だ実施されていない。さらに、民間のボランティアガイド協会が主体で取り組むのは珍しく、諸説分かれるものもあるが、そのためのガイド手作りの検定問題と「テキスト本」である。</p>

	<p>③ 実現性：当該補助金でテキスト本を印刷製本することは可能である。その内容についても会員内で色々な職業に従事していたリタイア組なので様々な角度・視点からの検討も可能である。検定試験実施についても会員内での「検定委員会」の立上及び観光物産協会等の関係機関・団体の協力も得られるので、日程や予算・計画等は十分可能である。</p> <p>④ 必要性：一般市民が、訪れる市外からの観光客に尋ねられた時の説明本に活用ができる。今までにそのような観光本は発行されていない。市観光用パンフレット、や観光物産協会・その他団体発行のパンフ・リーフレット類も部分的なものが多い。実際ガイドする者にとっても「引き出し」は多いほどよい案内ができる。ガイド等の知識に幅がでる。</p> <p>⑤ 継続性：当協会が検定試験を毎年続けていくことにより、市内外への「近江八幡」という町の存在宣伝はもとより、市民にも郷土愛を持ってもらい、会員獲得の継起にもなる。「テキスト本」については随時改定も必要だし、出題内容も変えていく必要がある。⇒現在も小中学校での校外学習（八幡をよく知るための八幡堀やヴォーリズ建築等）に支援ガイドをしています。将来的には、「副読本」を視野にいれた「テキスト本」を目指していきたい。また毎年、研修部で実施している「ふるさと観光塾」においても活用が期待できる。</p>
<p>事業の特色 アピールポイント</p>	<p>観光ボランティアガイド協会（八幡支部）が、手作りで行なおうとする単独の事業であり、協会始まって以来の事業であるが、各界の第一線を担ってきた人達ばかりなので、今までの経験・知識を活かして、この事業に取り組みたい。また、近江八幡市に観光ボランティアガイド（協会）の存在を内外に示したい。</p>
<p>今後の継続 発展性 （運営体制を含む）</p>	<p>当VG協会は現会員60余名がガイド部、研修部、事業運営部、広報宣伝部の4部会に分かれて所属しているが、新たに「(仮称)検定委員会」チームを立ち上げて、毎年継続して事業を実施していくように運営体制を整備する。当VG協会では、4部会の他に「紙芝居チーム」を既に持って活動しており、「検定(実施)委員会」も同じ様な特別専門チームとして活動を展開していくことで継続性が見込まれる。</p>

* 30周年記念事業委員会は、立ち上がりましたが、私の言う「検定(実施)委員会」

も「検定策定委員会」も、今もって立ち上ってはおりません。